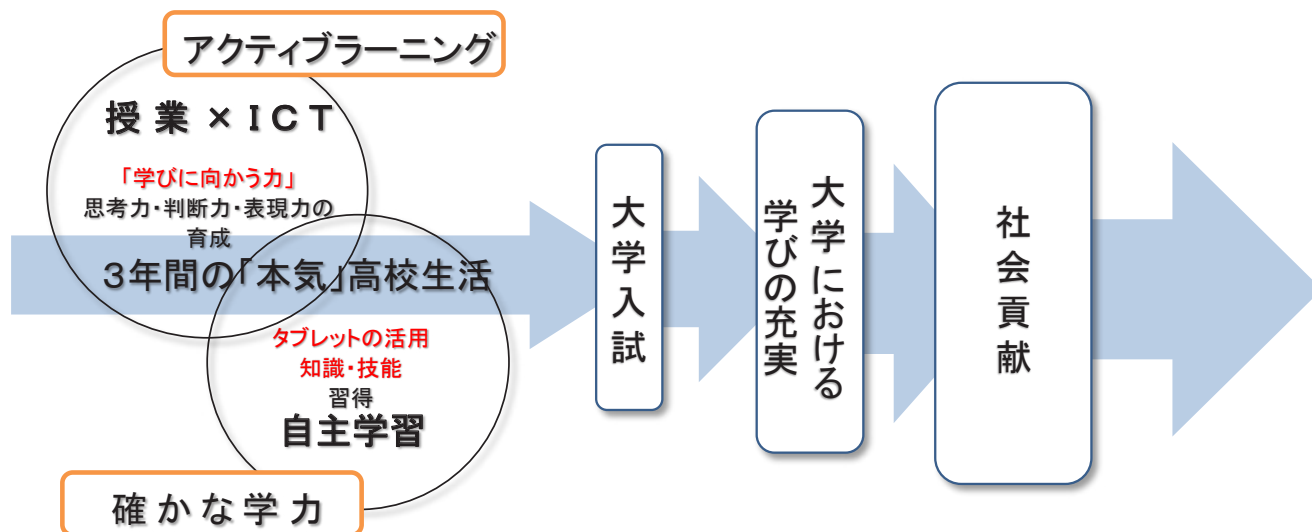


平成31年度科目履修案内 第1学年 目次

		頁
大宮北高校「本気の学習」		1
1年生の学習の指針		2
単位の履修と修得、卒業の認定について		4
平成31年度入学生教育課程表（普通科・理数科）		5
科目選択・コース選択をする際に		7
<各教科より>		
	コース・科	
1	国語科 国語総合（現代文・古典）	10
2	公民科 現代社会	14
3	数 学 数学Ⅰ、数学A	18
	SS数学Ⅰ	19
4	理 科 化学基礎	21
	物理基礎	22
	SS生物	24
	SS化学	26
	SS物理	27
5	保健体育 体育	31
	保健	33
6	芸 術 音楽Ⅰ	35
	美術Ⅰ	37
	書道Ⅰ	39
7	英語科 コミュニケーション英語Ⅰ	42
	英語表現Ⅰ	43
8	家庭科 家庭基礎	44
9	数理探究 数理探究	46
		47

大宮北高校「本気の学習」

教育改革の先進校で学ぶ喜び



北高生は自らが自己の高校生活に「本気」で取り組み成長します。
どんな「本気」に取り組み、自分の高校生活を豊かにしますか？
多彩な学校生活には「本気の部活動」「本気の学校行事」もあります。
「本気の学習」を大切にし、「本気の部活動」「本気の学校行事」を生かしましょう。
大宮北高校は皆さんの「本気」を応援します。

授業

大宮北高校の授業は「学問の魅力」を伝えます。
大学入試に対する表面的なノウハウだけを伝えるものではありません。
自ら積極的に発信し、学ぶことの楽しさを感じてください。
授業を中心とした予習・復習のサイクルを確立することで「学びに向かう力」が育ちます。
希望の大学に進学できる、大学入学後にも生きる「力」がつかます。
ICTを活用した「アクティブラーニング」→「思考力」「判断力」「表現力」の育成
「脱、教え込み授業」→「発信力」を育て、「学びに向かう力」「人間性」を滋養します。

自主学習

大宮北高校では自ら学び、学問を深める力を必要と考えています。
社会に貢献できる人材となるために、自らの「志」に向けた努力が必要です。
通学時間や部活動等によって時間の使い方は変わります。
個人タブレットをどのように活用するか。受信データをどう活用するかは個人に任せられます。
3年間を見据えた学習計画、各学年における学習計画をもとに、
個々の日々の学習計画を構築していきましょう。
苦手科目も克服していけるようにバランス良く時間を確保することが大切となります。
計画は担任の先生等との面談を通して確認していきましょう。
理数科・普通科併置による充実した学習システム→互いの「知的好奇心」を刺激・成長
海外交流事業、海外修学旅行等→国際社会に通用する視野を持つグローバル人材の育成

1年生の学習の指針

基本的な姿勢

1年生は、学業面においても早く高校生になることが第一の目標です。次に、学業は当然として部活動・学校行事にも積極的に参加し、多くの人と接することを通して視野を広げることが第二の目標です。

最後に、職業について学び、将来どのような職業に就きたいのかを考えることが第三の目標です。2年次には、その職業に就くための具体的な進路方向について調べます。

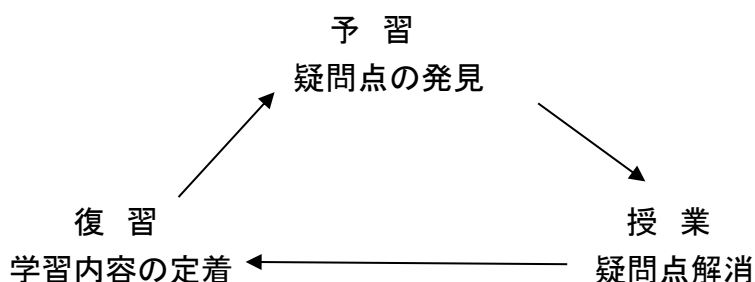
その対策として

- ① 将来の職業についてしっかりした意識を持つ
- ② 充実した高校生活を過ごす → 日々の自分を振り返る
- ③ 定期考査毎に目標を定めて頑張る
- ④ 得意科目をつくる →(例) 英語であれば 英検2級以上の取得
- ⑤ 自発的な学習習慣の確立 → 1日あたり2時間の学習
学習の『黄金の三角形』の確立
- ⑥ 保護者や友達、先生などに相談し、来年度の適切なコース選択をする。

学習の目標

- ① 予習・復習の習慣をつける。高校の学習は、かなり高度であることを早期に認識する。

予習 → 授業 → 復習 の『黄金の三角形』の確立



- ② 定期考査毎に、綿密な学習計画を立て実行し、結果について検討する。
- ③ 学習について、身近な目標を持つ。
- ④ 進研模擬試験を受け、弱点を理解しその補強に努める。必要に応じて中学校レベルの復習をする。

方 策 ……個々人の努力目標

- ① 定期考査ごとに PLAN (計画)・ DO (実行)・SEE (反省・改善)を繰り返し学力の向上を目指す。
- ② 模擬試験を積極的に受け、全国における自分の位置を把握し、志望校への学力との差を確認する。→ STEP UP 目標の明確化
- ③ モチベーションを維持するため、具体的な目標をもつ
例えば、クラスで10位以内 数学はクラスで5番以内など身近なものでよい。
- ④ 2年次のコースについての理解を深める。…進路研究の勧め
- ⑤ 学習に対するクラスでの雰囲気作り
→ 自信ができ、更なる飛躍が期待できる。→全体での学力 UP
- ⑥ 英単語を寝る20分前、又は通学時間等を利用して暗記する。
- ⑦ 新聞を読む。社会について関心を持つことは大切です。
- ⑧ 休日の学習時間を確保する。…普段できない部分をカバーする。
- ⑨ 自習時間など、隙間時間の積極的な利用。

学習計画

第1学期…定期考査を頑張る。

スタートダッシュを上手くする。→ 一日でも早く高校生になる。

2年次のコースについての理解を深める。

選択教科の研究をする。…シラバスの利用。

第2学期…定期考査を頑張る。

模擬試験の結果を吟味する。→全国レベルとの確認

→ 新たな学習に対する取り組み

2年次のコース決定…新たな目標の設定

第3学期…定期考査を頑張る。

模擬試験の結果を吟味する。→1年11月との比較

→自分の学力を客観的に把握し対策を練る。

	4月	5月	6月	7月	8月
第1学期	1学期中間考査対策		1学期期末考査対策		弱点補強等
	9月	10月	11月	12月	
第2学期	2学期中間考査対策		2学期期末考査対策		
	1月	2月	3月		
第3学期	3学期期末考査対策				

単位の履修と修得、卒業の認定

(1) 単位とは

各教科・科目の学習において、高等学校ではその学習量を表す基準を「単位」といいます。1単位は、ある科目について1週間あたり1授業時間（50分）を1年間学習した学習量です。言い換えれば、1週間に授業が2時間ある科目は、1年間で2単位ということです。例えば本校第1学年の科目「国語総合」は5単位ですから、1週間に授業が5時間あるということです。

(2) 「単位を取る」とは

高等学校では、学校に登校しているというだけでなく、授業にきちんと出席し（履修）、しっかり勉強して学習した内容を身につけなければ（修得）、卒業できません。

言い換えれば、卒業するためには、必要な「単位」を「履修」し、「修得」しなければなりません。これが、いわゆる「単位を取る」ということです。

(3) 履修とは

授業にきちんと出席し、学習にはげむことを「履修」といいます。出席状況が良好なときに「履修が認定」されます。履修が認定されないと、どんなにテストの点数が良くても、単位は取れません。

本校では、ある科目の欠課時数（授業の欠席時間数）が**標準授業時数（35×単位数）の3分の1以下（A）**のとき、その科目の単位を履修したと認定します。

また、各学期において、ある科目の欠課時数が多く、年度末までにAを超えてしまう恐れがある場合、その学期の評価が欠点となることもあります。

年度末に1科目でも履修が認定されない場合、進級または卒業はできず原級留め置き（いわゆる「留年」）となり、再び同じ学年を繰り返すこととなります。

(4) 修得とは

ある科目の学習内容を身につけることを「修得」といいます。履修が認定された科目について、学習状況が良好である場合に、単位の「修得が認定」されます。履修が認定されても、修得が認定されないと、単位を取ったことにはなりません。

具体的には、ある科目について**評定（＝学年末の成績）が5段階の「2」以上**のとき、その科目の単位を修得したと認定します。成績が「1」だったときは欠点（いわゆる「赤点」）となり、その科目の単位の修得は認定されません。

(5) 進級・卒業の認定条件

本校を含む多くの高等学校（単位制を除く）では、学年ごとに学習する科目等がおおよそ決められており、それらの科目等（「総合的な学習の時間」を含む）のすべての単位（学校によっては一定基準以上の単位）を取り、特別活動を履修して成果が満足できると認められる場合に、その学年の「修了」が認められ、次の学年に「進級」します。こうして進級を繰り返して、最終学年の修了が認められると「卒業」できるわけです。

必要な単位が取れずに学年の修了が認められない場合には、原級留め置きとなり、もう一度その学年の科目をすべてやり直さなければなりません。この場合、履修や修得が認定されるはずの科目も、すべて認定されないこととなります。

平成31年度入学生 普通科教育課程表

第1学年

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
共通	国語総合 5					現社 2		数学I 3		数学A 2		化学基礎 2		物理基礎 2		体育 3		保健 1		芸術I 2		C英語I 4		英語表現I 2		家庭基礎 2		数理探究 2		総合学習 1		LHR 1		

第2学年

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
A	現代文B 2		古典B 3		数学II 4		英語理解 数学B 2		体育 3		C英語II 4		英語表現II 2		世界史B 3		日本史B 3		生物基礎 3		芸術II 地学基礎 2		総合学習 1		LHR 1									
B	現代文B 2		古典B 3		数学II 5		数学B 2		体育 3		C英語II 4		英語表現II 2		世界史A 2		生物基礎 2		化学 4		芸術II 2		総合学習 1		LHR 1									
SSC	現代文B 2		古典B 3		数学II 5		数学B 2		体育 3		C英語II 4		英語表現II 2		世界史A 2		生物基礎 2		化学 4		数理探究 2		総合学習 1		LHR 1									

1) Aコース10・11英語理解・数学Bより1科目を選択すること。

* 国公立志望者は、数学Bを選択すること。

第3学年

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
A 1	現代文B 3		古典B 3		体育 2		C英語III 4		英語表現II 3		日本史B 世界史B 5		政経 2		倫理 特講 世史特講 日史特講 数学特講 英語特講 2		英語探究 3		国語探究 3		音楽III クラシック 現代の音 スボーツII デザイン 2		総合学習 1		LHR 1									
A 2	現代文B 3		古典B 3		体育 2		C英語III 4		英語表現II 3		日本史B 世界史B 5		政経+倫理 地理B 4		数学探究 5		化学探究 地学探究 3		総合学習 1		LHR 1													

1) 2年生B・SSCから3年生Aへのコース変更の場合、地歴科目は地理Bか日本史Bを選択するしほりが生じる

2) A 1コース31・32音楽IIIは、1・2年生に音楽I・IIを選択したものに限る

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
B	国語探究 3		体育 2		C英語III 4		英語表現II 2		日本史B 地理B 4		数学III 7		数学II 3		数学探究 4		物理 生物 7		化学 3		総合学習 1		LHR 1											

平成31年度入学生 理数科教育課程表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
1学年	国語総合 5		現社 2	体育 2	保健 1	芸術 I 2	C 英語 I 3	英表 I 2	家基 2	SS数学 I 5		SS化学 2	SS物理 2	SS生物 2	数理 探究 2	総合 学習 1	LHR 1																			
2学年	現文 B 2	古典 B 3	世界史 A 2	体育 3	保健 1	C 英語 II 4	英表 II 2	SS数学 II 7		SS化学 2	SS物理 2	SS生物 2	数理 探究 2	総合 学習 1	LHR 1																					
3学年	国語探究 2	日本史 B 地理 B 4	体育 2	C 英語 III 4	英表 II 2	SS数学 II 3	SS数学特論 4	SS化学 5	SS物理 SS生物 5	数理 探究 1	総合 学習 1	LHR 1																								

＝科目選択・コース選択をする際に＝

2020年度 普通科第2学年のコース選択・科目選択

2年生では、より自分の進路に即した学習ができるように次の3コースがあります。

Aコース（文系）

Bコース（理系）

SSC

SSC というのは、スーパーサイエンスクラスの略称で、1年生の「数理探究」で身につけた情報処理能力を生かして、2年生では、自ら課題を設定し、研究、発表する科目です。課題探究の力がつきます。

また、A・Bコースには、次のような選択科目があります。

A コ ー ス	数学B	国公立大学進学希望者は受験に必要な科目ですので履修してください。数列とその和、漸化式と数学的帰納法、及び平面上のベクトル、空間のベクトルを学習します。	
	英語理解	入試用の問題集を使用し、演習を通して、長文読解・文法・単語と語法の力をバランスよく伸ばすことを目的とします。入試レベルの知識を身につけられるように、たくさん問題を解きます。長文を解くのに不可欠な語法や単語の知識を、問題演習を通して実践的に学びます。	
	芸 術	音楽Ⅱ	音楽Ⅰの選択者が継続になります。内容は、表現（歌曲・合唱・器楽など）と鑑賞（世界民族音楽・西洋音楽史・劇音楽など）で、Ⅰを更に広げ深めます。
		美術Ⅱ	美術Ⅰの選択者が継続になります。内容は、塑像（粘土）、絵画（油絵）、デザインを学習制作していきます。定期的に美術に関する調べ学習を行います。美術道具は、1年次の物を継続して使いますので大切に保管してください。
		書道Ⅱ	書道Ⅰの選択者が継続になります。内容は、漢字の甲骨文字の発生から楷書の成立までを順に学習します。又、篆刻（石に自分の名前を刻す）を、そして平安時代の日本で初めての仮名文字を学習し最後に硬筆となります。
地学基礎	1学期は天文分野、2学期はプレート運動、地震、火山活動等、3学期は地球の46億年の歴史について学習します。センター試験対策を踏まえた学習内容になっていますが、残念ながら、1年間では全内容を終了できません。気象、環境分野が学習できません。		
B コ ー ス	芸 術	Aコースの芸術選択と同じで、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、書道Ⅱがあります。	

1 国語科

◆ 国語という教科 … 日常の積み重ねを大切に

国語の学習は、読解力・表現力だけではなく感性を磨き、思考力を高め、豊かな感受性を育むことにつながります。日頃から、語彙力を豊かにし、いろいろな文章に触れ、人の話に耳を傾け、自らも文章を書き、発言して試みるのが大切です。高校の授業は、とにかく進度が速いです。予習をしっかり行い、授業に集中し、折に触れ何度も復習する学習のサイクルを習慣化してください。

◆ 国語総合 … 現代文と古典（古文・漢文）から成る

- ノート：「現代文」・「古文」・「漢文」は別々のノートを用意する。（ルーズリーフ不可）
- 辞書：国語辞典・古語辞典・漢和辞典を活用する。

<現代文の予習>

- ・辞書で不明な語句を調べ、教科書単元末の「新出漢字」を何度も書くなどして覚える。
- ・教科書単元末の「学習」の問題を自分で解いてみる。
- ・段落分けや要約を試みる。
- ・漢字や現代文重要語などは、問題集を使ってマスターできるようにする。

<現代文の復習>

- ・精読し、内容把握ができているか確認する。
- ・作品の主題や、作者や筆者の主張をまとめる。
- ・漢字や語句の意味を理解できたか確認する。

<古文の予習>

- ・音読を繰り返し行って、古文のリズムを体の中にしみこませる。
- ・辞書を引いて、語の意味だけではなく、文法的な働きや語の成り立ち、類義語や対義語など、幅広く目を通すようにする。
- ・文法は機会あるごとに文法書を開いて、確認する。

<古文の復習>

- ・音読しながら、授業内容の復習をする。
- 特に文法事項は繰り返し確認し、文法書の練習問題もやって、確実に身につける。

<漢文の予習>

- ・音読を繰り返し行って、漢文のリズムを体の中にしみこませる。
- ・辞書を引いて、意味の見当がつかない熟語については一字ずつの漢字の意味を確認しておく。
- ・句法を確認して、ノート等に記入しておく。

<漢文の復習>

- ・音読しながら、授業内容の復習をする。
- 特に、学習済みの漢文はノートに書き出し、白文で読めるように何度も音読する。その後、ノートに書き写した白文に訓点をつけてみたり、書き下し文にしたりして、漢文独特の言い回しに慣れる。

◆ 課題テスト・漢字テスト【2年までの予定】

* 課題テスト

	春休み明け	夏休み明け	冬休み明け
1年	/	『漢文必携』基礎編	百人一首 [1～50番]
		『古典文法』第一章(動・形・形動詞)	『古典文法』第二章(助動詞)
2年	百人一首 [51～100番]	文学史 [上代・中古]	文学史 [中世・近世]
	『古典文法』第三・四章	『古典文法』第五章(識別)	『古典文法』第六章(敬語)

◎ 「百人一首」「文学史」については『常用国語便覧』を使用する。

* 漢字テスト

学年	期間	1学期	2学期	3学期
1年	中間考査まで	5級：第1回～第4回	4級：第9回～第14回	3級：第23回～第29回
	期末考査まで	5級：第5回～第8回	4級：第15回～第22回	
2年	中間考査まで	3級：第30回～第35回	準2級：第42回～第47回	2級：第54回～第59回
	期末考査まで	準2級：第36回～第41回	準2級：第48回～第50回 2級：第51回～第53回	

◎ 『新常用漢字必携パーフェクトクリア』を使用する。

平成31年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
国語総合 (現代文)		2	高等学校 改訂版 国語総合 [第一学習社]	『常用国語便覧』 (浜島書店) 『パーフェクトクリア』 (尚文出版) 『共通テスト国語対策問題集[入門』 (桐原)
【到達目標】		① 評論文を読んで、構成や文脈を把握し、筆者の主張を理解できるようにする。 ② 小説を読んで、場面・状況等を把握し、登場人物の心情を理解し、作品にこめられた主題を考えられるようにする。 ③ 韻文(詩・短歌・俳句)の形式を理解し、内容を理解できるようにする。 ④ 正確な漢字の読み書きを身につけ、語彙力を増やす。		
【学習上の留意点】		① 文脈を正確に理解し、筆者(作者)の主張や主題を読み取ることができたか。 ② 理解した内容を文章にまとめたり、発表したりできるようになったか。 ③ 積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やすことができたか。 ④ 小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させることができたか。		
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	・随想 「世界は常に更新されている」 ・評論 「水の東西」		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。
6月 ～ 7月	1学期 期末	・小説 「羅生門」 ・詩 「鶯のうへ」「一つのメルヘン」 「I was born」		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、場面・状況が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 登場人物の行動・心情を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品にこめられた主題が考えられたか。 <input type="checkbox"/> 詩の形式が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 語のイメージするところを把握し、作品の内容を理解することができたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	・評論 「『文化』としての科学」 ・小説 「夢十夜」		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 登場人物の行動・心情を理解できたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末	・小説 「城の崎にて」 ・評論 「『間』の感覚」		<input type="checkbox"/> 作品にこめられた主題が考えられたか。 <input type="checkbox"/> 便覧等を使い、作者について理解が深められたか。 <input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末	・短歌と俳句 「その子二十」 「こころの帆」 ・評論 「グローバリズムの『遠近感』」		<input type="checkbox"/> 短歌や俳句の形式が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 語のイメージするところを把握し、作品の内容を理解することができたか。 <input type="checkbox"/> 難語句理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。

平成31年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
国語総合 (古典)		3	高等学校 改訂版 国語総合 [第一学習社]	『常用国語便覧』(浜島書店) 『重要古文単語315 三訂版』(桐原書店) 『新修古典文法 二訂版』(京都書房) 『漢文必携 四訂版』(桐原書店)
【到達目標】		① 古文の語彙力を増やし、文法を理解して、現代語訳できるようにする。 ② 古文に描かれた時代背景や文化を理解し、作品の内容を理解できるようにする。 ③ 漢文の語法・句法を理解し、現代語訳できるようにする。 ④ 漢文に描かれた時代背景や文化・思想を理解し、作品の内容を理解できるようにする。		
【学習上の留意点】		① 古文単語や基礎的な古文の文法を理解し、現代語訳できたか。 ② 漢文の語法や句法を理解し、現代語訳できたか。 ③ 作品や作者、思想について、便覧等を使いながら理解を深めることができたか。 ④ 小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させることができたか。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「宇治拾遺物語」・児のそら寝 「竹取物語」・かぐや姫のおひたち	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣い <input type="checkbox"/> 古文単語 <input type="checkbox"/> 動詞 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	
		漢文入門	<input type="checkbox"/> 漢和辞典の引き方 <input type="checkbox"/> 訓読のしかた <input type="checkbox"/> 返り点・送り仮名 <input type="checkbox"/> 再読文字	
6月 ～ 7月	1学期 期末	「伊勢物語」 ・芥川 ・東下り	<input type="checkbox"/> 古文単語 <input type="checkbox"/> 形容詞・形容動詞 <input type="checkbox"/> 係り結び <input type="checkbox"/> 助動詞前半 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	
		故事成語 ・漁父之利 ・狐借虎威	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 故事成語の意味	
9月 ～ 10月	2学期 中間	「徒然草」 ・つれづれなるままに ・ある人、弓射ることを習ふに ・丹波に出雲といふ所あり	<input type="checkbox"/> 古文単語 <input type="checkbox"/> 助動詞 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	
		古代の史話 ・完璧 ・先従隗始	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 故事成語の意味	
11月 ～ 12月	2学期 期末	和歌・「万葉集」・「古今集」 ・「新古今集」	<input type="checkbox"/> 古文単語 <input type="checkbox"/> 助詞 <input type="checkbox"/> 和歌の修辞 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	
		「土佐日記」・門出・帰京 「論語」 唐詩の世界	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 漢詩のきまり	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「平家物語」 ・木曾の最期	<input type="checkbox"/> 古文単語 <input type="checkbox"/> 敬語の基礎的事項 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	
		説話の世界「桃花源記」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作者理解	

2 公民科

0 はじめに ～正解のない世界で、自分なりの「答え」を考えてゆく～

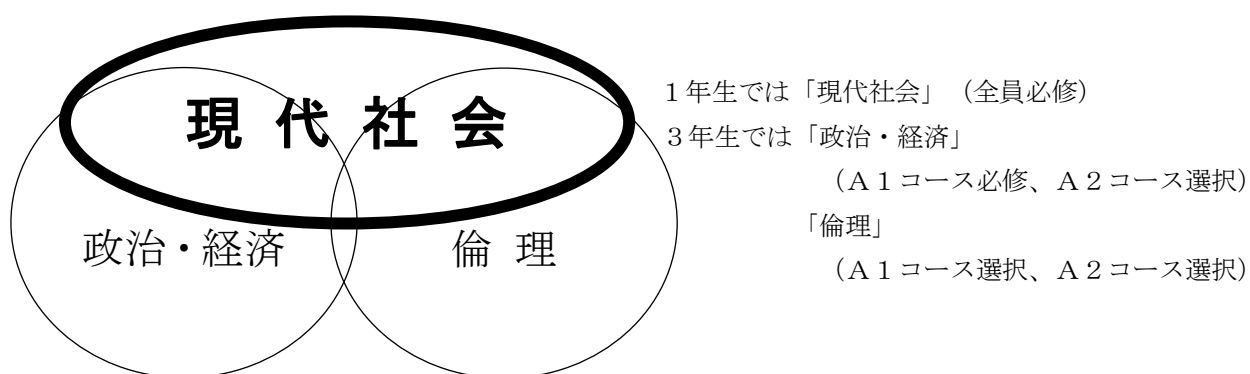
2015年に公職選挙法が改正され、70年ぶりに選挙権年齢が引き下げられました。18歳、つまり高校3年生から選挙に参加できるひとがいるということです。誕生日にもよりますが、早い人はあと2年で投票できることになります。いざ選挙になったときに、あなたは何を基準に候補者・政党を選びますか？

大宮北高校に入学するみなさんであれば、日本社会が様々な問題を抱えていることをいろいろなところから見聞きしているのではないのでしょうか。世界一の高齢社会—それに対応する年金・医療などの社会保障政策、待機児童、原子力発電所の問題、民族や宗教対立、LGBTの権利…。そうした問題から一人ひとりが「コレが一番重要だ」と考えた争点に対して投票する。「現代社会」は、現実世界がどのような制度になっているのか、思想にまでさかのぼって考えていく科目です。正解のない世界で、それでも自分なりの「答え」を考えていく—これからの社会を生きる全ての人に必要な科目とも言えます。

人間や社会について幅広く全体を見渡す「モノの見方、考え方」は他の受験科目や小論文にも役に立つはずで、社会に出たら「受験科目ではなかったの…」という言い訳は通用しません。TVやインターネットといった周りの雰囲気にならずに、自分の視点をしっかり持って、主体的に物事を判断できるような社会人になって下さい。

1 「公民科」って何だろう？

小学校の「社会」は中学校になると「地理」「歴史」「公民」に分かれました。高校になると、さらに「現代社会」「政治経済」「倫理」という科目に分かれます。おおよそ、下の図のようなイメージです。



1年次で学習する「現代社会」には、3年次に学ぶ「倫理」および「政経」と重複する分野があります。「政治・経済」では憲法や金融をはじめとする多くの分野、「倫理」では青年期の心理や西洋/東洋の思想などです。しかし、3年次の「倫理」「政経」では、現代社会で扱っていない分野を中心に重複しないように授業を行う予定です。年度によって、進度の差が出る場合もあるので、その場合は調整します。

2 学習方法について

◎「予習なのか、復習なのか、それが問題だ」

2単位（1週間に2時間の授業）しかない現代社会では授業時間内に問題演習をする時間がとれません。

記憶が定着するにはインプット3割、アウトプット7割の割合で学習すると効果的です。授業では知識をインプットできるわけですから、アウトプット（つまり復習）をしっかりとやりましょう。

①ニュースを見よう「今、何が起きているのか？ その原因は何なのか？」

新聞に毎日、目を通すことをおすすめします。時間がなければテレビのニュースやアプリのニュースでもかまいません。大切なのはニュースを継続して追っていくことです。途中からではわかりにくいかもしれませんが、次第に理解できるようになり、自分の考えも深まっていきます。授業の予習・復習にもなりますし、センター試験には教科書に載っていない新しい用語も出題されます。また、面接・小論文対策にも必要です。

②授業の教材はしっかり管理しておこう

授業で配布された教材（プリントなど）は全てきちんと保管しましょう。

模擬試験で間違えてしまった箇所を復習して、それを教材と一緒にノートやファイルに保管することで、自分の弱点に対応する世界で唯一のオリジナル参考書になってくれます。

③参考書・問題集について

入学してすぐに参考書や問題集を準備する必要はないと考えています。特に皆さんはタブレットでも自学自習できる（スタディサプリなど）環境が整っているので、自分の学習スタイルや理解のレベルに応じて必要であれば用意すれば良いでしょう。もちろん、授業担当者も相談に乗ります。

注意しなければならないのは、公民科の参考書・問題集は、残念ながら種類は多くないことと、最新のものを使うことです。社会はこの瞬間も変化しています。古い参考書や問題集の中には、すでに内容が時代遅れ（＝間違い）になってしまっているものもあるのです。

④とにかく集中！！

優れた参考書や塾での授業を受けたとしても、高校3年間でいちばん学習時間が確保されるのは学校の授業時間にほかなりません。そうであれば、毎回の授業を「この時間で完璧に理解して、覚えてやる！」くらいの気持ちを持って臨んでください。その時間にマスターできれば部活や行事といった「高校生活でやりたいこと」も十分できるはずですよ。

「好きこそものの上手なれ」。興味が持てればどんどん身につけていきますよ！

平成31年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
現代社会		2	現代社会 [東京書籍]	なし
【到達目標】		① 社会を構成する一人の市民として、必要不可欠な知識を学び、社会におけるさまざまな事象をメディアに惑わされずに的確に捉え、自分自身で判断できる力を養います。 ② 単に制度だけではなく、その思想の源流にさかのぼって学び、現在の問題点について考察します。 ③ メディア・リテラシーを学び、主体的に情報を取捨選択できる能力を身につける。		
【学習上の留意点】		① 基本的な思想や概念について、その内容を正しく理解できたか。 ② 日々のニュースに関心を持ち、自己の見識をもとに主体的に判断することができたか。 ③ 進路実現のため上級学校へ向かう際の入試や模試への対応力が身についたか。 ④ 青年期、政治分野を中心に学習する。		
月	テスト	進度 (単元) 教科書目次より	主な学習事項	
4月 ～ 5月	1学期 中間	第2部 現代の社会と人間 第1章 青年期と自己形成の課題 1 現代社会と青年の生き方 ① 現代社会と青年実さ ② 青年期の発達課題 ③ 自己形成と社会とのかかわり ④ 進路と生きがいの創造	<input type="checkbox"/> イニシエーション <input type="checkbox"/> マージナルマン <input type="checkbox"/> モラトリアム <input type="checkbox"/> アイデンティティ <input type="checkbox"/> 自我 <input type="checkbox"/> 欲求階層 <input type="checkbox"/> 防衛機制 <input type="checkbox"/> エスノセントリズム <input type="checkbox"/> マルチカルチュラルリズム <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> ジェンダー 等	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2章 日本国憲法と民主政治 1 民主政治とは ① 民主政治の成立 ② 基本的人権の確立 ③ 世界の政治体制	<input type="checkbox"/> 国家 <input type="checkbox"/> 政治 <input type="checkbox"/> 自然法思想 <input type="checkbox"/> 社会契約 <input type="checkbox"/> 法の支配 <input type="checkbox"/> 法治主義 <input type="checkbox"/> 人権保障 <input type="checkbox"/> 民主制 <input type="checkbox"/> 議院内閣制 <input type="checkbox"/> 大統領制 <input type="checkbox"/> 社会主義 <input type="checkbox"/> 主な国の政治体制 等	
9月 ～ 10月	2学期 中間	2 日本国憲法の基本原理 ① 日本国憲法と三つの原理 ② 基本的人権の保障(1) ③ 基本的人権の保障(2) ④ 新しい人権と人権保障の広がり	<input type="checkbox"/> 憲法とは <input type="checkbox"/> 明治憲法の特徴 <input type="checkbox"/> 憲法成立過程 <input type="checkbox"/> 憲法三原則 <input type="checkbox"/> 自由権 <input type="checkbox"/> 社会権 <input type="checkbox"/> 新しい人権 <input type="checkbox"/> 人権の国際的保障 等	
11月 ～ 12月	2学期 期末	⑤ 平和主義と安全保障(1) ⑥ 平和主義と安全保障(2) 3 日本の政治機構 ① 国会と立法 ② 内閣と行政	<input type="checkbox"/> 平和主義 <input type="checkbox"/> 9条と自衛隊 <input type="checkbox"/> 文民統制 <input type="checkbox"/> 冷戦 <input type="checkbox"/> 安保条約 <input type="checkbox"/> 司法と安全保障 <input type="checkbox"/> 戦後の安保法制 <input type="checkbox"/> 国会の地位・機構・権限 <input type="checkbox"/> 衆議院の優越 <input type="checkbox"/> 議員特権 <input type="checkbox"/> 国会の種類 <input type="checkbox"/> 内閣の機構・権限 <input type="checkbox"/> 行政委員会 <input type="checkbox"/> 行政国家 <input type="checkbox"/> 内閣の信任 等	
1月		③ 裁判所と司法 ④ 地方自治	<input type="checkbox"/> 裁判官の権限・地位 <input type="checkbox"/> 裁判の扱い <input type="checkbox"/> 裁判用語 <input type="checkbox"/> 裁判の種類 <input type="checkbox"/> 裁判所の種類 <input type="checkbox"/> 裁判官の任免 <input type="checkbox"/> 国民審査 <input type="checkbox"/> 裁判員裁判 <input type="checkbox"/> 司法制度改革 <input type="checkbox"/> 地方自治の機構・権限 <input type="checkbox"/> 直接請求 <input type="checkbox"/> 地方財政 等	
2月	学年末 考査	4 現代政治の特質と課題 ① 選挙のしくみと課題 ② 政党と利益集団 ③ 世論と政治参加	<input type="checkbox"/> 選挙制度 <input type="checkbox"/> 選挙の課題 <input type="checkbox"/> 政党 <input type="checkbox"/> 圧力団体 <input type="checkbox"/> 戦後の政党政治 <input type="checkbox"/> 世論とメディア 等	

※自己チェック項目は学習内容のすべてではない。

3 数学科

高校で楽しく数学を学ぶには、どんなことに気をつけたらよいのでしょうか？
大宮北高校での数学を、次にあげるポイントで説明しましょう。

(1) 予習 (2) 授業 (3) 復習 (4) 小テスト・定期考査 (5) ノート

(1) 予習について

数学が得意になる秘訣は予習することです。予習をしないで授業に臨むのは新鮮であるかもしれませんが危険です。

「予習してもわからないのですが…」

わからなくていいのです。予習して教科書が理解できるなら、それはすごい能力です。**わからないところを見つける**ことが大切。授業ではどうやって説明するのかなという楽しみがあります。

「予習の仕方がわからないのですが…」

その時間にやりそうなところを解くだけでいいのです。わからないときはその近辺の**例題や説明を参考にして考える**のです。それでもわからないときはマークしておいて次に進んでいいのです。

「予習する意義があるのですか？」

授業にメリハリがつけます。50分間集中しているのはいくら若くても大変。集中するところと軽く流すところがあっていい。わかっているときはリラックスして聞けるし、隙間の時間に問題集に取り組むことができます。

実はこれがもっとも大切なのですが、**初めての内容を自力で読み理解する…**ということをや日々続けることが、将来大いに役に立ちます。論文や文献を読む力がつけます。近未来的に言えば、見たことのない入試問題に直面してもじっと考える力がついてきます。毎日の少しずつの予習がどんなに力をつけることでしょうか。

(2) 授業について

1. 先生の説明は注意深く聞く。

高校の授業では、重要なポイントを先生が板書ではなく口頭で説明することも多くなります。板書に気を取られて肝心の説明を聞き逃すことのないよう注意しましょう。

2. 先生の説明の要点は必ずメモをとる。

板書以外の説明もしっかり注意してノートに取るように心掛けましょう。問題を解く**着眼点や発想**などは、板書の中でなく、説明の中にあるかもしれません。

3. 問題は必ず自分で解く。

授業中に解く問題は、その授業が理解できたかどうかを試すチャンスです。教科書・ノートを参考にしながら、必ず自分で解く努力をしましょう。

4. 正しい解き方を確認する。

解いた問題の答え合わせをして、正しい解き方を押さえましょう。何も見ないで確実に解けるようにしておくことが大切です！

(3) 復習について

中学校では、授業時間中さえしっかり集中していれば、授業についていくのにそれほど苦労しなかったかもしれませんが、しかし、覚えるべきことの質や量がレベルアップした高校の学習内容を完璧に理解するためには、授業だけでは不十分です。その日の授業内容を理解できたかしっかり確認しておきましょう。また高校の授業の進むスピードは、中学校とは段違いです。そのため、ほんの少しの「わからないこと」が、あっと言う間に手のつけようがないほど溜まってしまいます。疑問点は早めに解決しておきましょう。

1. 宿題は必ず自分の力で取り組む。
2. 授業で扱わなかった問題にも挑戦する。問題集は考査前だけでなく普段から取り組んでおく。
3. 解けない問題にも教科書・授業ノートを参考にして、粘り強く取り組む。
4. どうしてもわからないときは、どこが、何がわからないのかを明らかにして、先生に質問するポイントを整理しておく。

(4) 小テスト・定期考査

・大宮北高校では、教科書のまとまった単元、章が終わるときに確認のテストを行います。その単元、章の基本事項、標準的な問題が出題されるテストです。点数を気にするのではなく、自分の理解度を確認し、十分に理解している項目はさらに発展的な内容に、理解が不十分な項目は後回しにせず即座に基本から取り組みましょう。

・高校の定期考査は教科・科目数も多く、とても一夜漬けでは通用しません。数学も含め、どの教科も、継続した日々の学習、家庭での予習、復習が欠かせません。

定期考査前には、基本的には授業の理解を中心にして、教科書とノート、問題集を使って徹底復習しましょう。

高校で初めての定期考査は、何をすればいいのか不安な人も多いでしょう。

数学の小テスト・定期考査の出題内容は、簡単に言うと次のようになります。

- 教科書の練習、47ページのA問題にあるような「基本問題」
- 教科書の問題や章末問題A、47ページのB問題にあるような「標準問題」
- 教科書の章末問題B、47ページの応用問題、総合演習にあるような「応用問題」

基本的にはこれらを、教科書と授業ノートを利用して、最初からもう一度自分の力で解くことが最低限必要になります。

解き方を暗記したり、模範解答を綺麗にノートに写したりして勉強した気になって終わるのではなく、とにかく、「考える」ことが大切です。代表的、典型的な例題は、解法パターンの習得が必要ですが、それでもすぐに模範解答をみるのではなく、時には時間をかけて考え、悩むことが必要です。自分で考えてこそ、模範解答を見たとき、納得し、解法に感心し、あるいは気づかなかったポイントが強く印象づけられるというものです。

実際に手を動かし、考え、その後で解法を確認する。学問に王道なし。千里の道も一歩から。継続は力なり。

地道な努力を継続することこそが次の勝利へとつながるのです。

<事前対策のチェック&アドバイス>

2週間前Check <計画を立て、範囲内のポイントを徹底理解！>

- テスト範囲を確認して、計画を立てる。

試験範囲をもれなく対策するためには、計画的に勉強することが何よりも大切です。

- 知識にもれがないよう教科書・授業ノートを見直す。

押さえるべきポイントや知識はすべて頭に入れましょう。

- 定理・公式の使い方をチェックする。

定理・公式はただ覚えるだけでは点が取れません。理解し、基本問題を解いて使い方を確認しておきましょう。

1週間前Check <問題を解ける状態にしておこう！>

- 教科書、問題集の問題を解く。

知識は、実際に問題が解けてはじめてテストで通用します。問題演習には徹底的に取り組みましょう。

- 課題プリントも確認し、問題を解いておく。

- 以前、間違えたことのある問題は必ず解き直す。

高校の定期テストでは問題を解く過程も採点の対象となるので、解法までしっかり確認しておきましょう。

- 教科書の章末問題、問題集の応用問題にも取り組む。

前日Check <直前は最終チェック！>

- 解き方に不安のある問題はないか、再チェックする。

- 定理・公式などをもう一度確かめておく。

(5) ノートについて

少なくとも「予習・授業ノート」、「問題演習ノート」、「誤答訂正ノート」の3冊のノートを用意して下さい。

「予習・授業ノート」：日々の予習や授業で使います。

- ・予習の段階では、例題などを自力で取り組み、不明な点を明らかにしておきます。
- ・授業では、①章やタイトルを記入し、復習の時に見やすいノートを心がける。
 - ②式変形などは途中式を省略せず、後で見直したときに分かるようにしておく。
 - ③口頭での説明も含め、大切なポイントは、枠で囲んだり**蛍光ペンで色づけ**したり目立つようにする。
 - ④図やグラフは、大きめに丁寧に描く。問題で問われている状況がイメージしやすくなります。

「問題演習ノート」：教科書傍用問題集等を解きます。

- ・例として、㉑：自力で解けた、㉒：ヒントを見て解けた、㉓：解答を見て理解した、㉔：解答を見ても不明などのチェックをつけ、㉕～㉗は必ず解き直す。試験までに**3回は繰り返す**とよい。
- ・夏休みなどの演習課題を解く。

「誤答訂正ノート」：小テストや定期考査、課題テスト、実力テストの復習に用います。

- ・テストが終わって安心してはいけません。テスト勉強は、実は答案用紙が返却された後こそが本番と言ってもいいくらいなのです。その範囲内の最重要事項ばかりを凝縮して作られるのが試験問題です。

間違えた問題、減点された問題を徹底的に解き直すことは学力を向上させるために極めて効果的です。

このことは、これから取り組むすべての試験で一番大切なことです。

- ①問題用紙、解答用紙を貼る。
- ②間違ったり、減点されたりした問題は、模範解答を参考に**解き直し**、解答の流れを整理する。
- ③誤答の原因や、**解法のポイント**をわかりやすくまとめる。
- ④**類題**を、問題集や教科書から探し解いてみる。
- ⑤最後に、テストの結果や普段の学習の仕方について**反省点や改善点**などをまとめる。

- ・自分がどこでつまづいたのか、どうして間違えたのかが一目でわかり、復習するのにとても便利です。このノートは後で何度も見返しましょう。返却された答案用紙は、これから成績アップするために何をすればいいのかを教えてくれる道しるべであり、向上への宝の山です！

(6) 最後に

<数学の2つの勉強法>

数学は積み上げていく学問なのでコツコツやっていくのが普通でしょう。センター試験くらいはこれで対応できます。しかし、二次試験、さらに理工系で数学を応用する場合、これでは不十分です。必要なのは2つ、

「**熱中する時間**」

「**コツコツと学ぶ時間**」

何か面白いことがあったらそれに熱中して考えてみましょう。その分野が得意になるはずですが、苦点な分野があったら8時間そこだけをやってみましょう。何かが見えてきます。中学の教科書を丸一日かけて見直すのもいいかもしれません。**コツコツ、時に熱中!**

<数学は必要か?>

数学はみんなにとって必要か? 教科としての数学があるのだから、学ばなければならないけれど、本当の必要性をわかっているでしょうか?

「私は文系だから…」

文系だから、入試に使わないから…という考え方をすると、狭い生き方、小さな人生になってしまいます。もっと先を見てほしいのです。経済学部では数学を知らないと太刀打ちできません。微分積分や数列は常識。法学部の法律の文章には「かつ」と「または」が沢山入っています。アリバイは背理法です。弁護士、裁判官は理系の知識なしには成り立たません。文学でも心理でもデータ処理が必要となります。社会科学然り。

「〇〇は知らないから…」と言っていては社会では相手にされません。知らなければ学ばなければなりません。数学は苦手だからといって逃げてはいけません。**学ぼうという意欲は大きな武器となります。**

平成31年度 年間学習計画表 **普通**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数学Ⅰ、数学A		5	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ [数研出版]	教科書傍用問題集「4プロセス」
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅰ」第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	<input type="checkbox"/> 整式の加法と減法 <input type="checkbox"/> 整式の乗法 <input type="checkbox"/> 因数分解 <input type="checkbox"/> 実数 <input type="checkbox"/> 根号を含む式の計算 <input type="checkbox"/> 不等式の性質 <input type="checkbox"/> 1次不等式 <input type="checkbox"/> 絶対値を含む方程式・不等式	
		「数学Ⅰ」第5章 データの分析	<input type="checkbox"/> データの整理 <input type="checkbox"/> データの代表値 <input type="checkbox"/> データの散らばりと四分位数 <input type="checkbox"/> 分散と標準偏差 <input type="checkbox"/> データの相関	
		「数学Ⅰ」第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値と変化	<input type="checkbox"/> 関数とグラフ <input type="checkbox"/> 2次関数のグラフ <input type="checkbox"/> 2次関数の最大・最小 <input type="checkbox"/> 2次関数の決定	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3節 2次方程式と2次不等式	<input type="checkbox"/> 2次方程式 <input type="checkbox"/> 2次関数のグラフとx軸の位置関係 <input type="checkbox"/> 2次不等式	
		「数学Ⅰ」第2章 集合と命題	<input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> 命題と条件 <input type="checkbox"/> 命題と証明	
		「数学A」第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	<input type="checkbox"/> 集合の要素の個数 <input type="checkbox"/> 場合の数 <input type="checkbox"/> 順列 <input type="checkbox"/> 組合せ	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2節 確率	<input type="checkbox"/> 事象と確率 <input type="checkbox"/> 確率の基本性質 <input type="checkbox"/> 独立な試行と確率 <input type="checkbox"/> 条件付き確率	
		「数学A」第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	<input type="checkbox"/> 三角形の辺の比 <input type="checkbox"/> 三角形の外心・内心・重心 <input type="checkbox"/> チェバの定理・メネラウスの定理 <input type="checkbox"/> 円に内接する四角形 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2つの円 <input type="checkbox"/> 作図 <input type="checkbox"/> 直線と平面 <input type="checkbox"/> 空間図形と多面体	
		「数学Ⅰ」第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	<input type="checkbox"/> 三角比 <input type="checkbox"/> 三角比の相互関係 <input type="checkbox"/> 三角比の拡張 <input type="checkbox"/> 正弦定理 <input type="checkbox"/> 余弦定理 <input type="checkbox"/> 正弦定理と余弦定理の応用 <input type="checkbox"/> 三角形の面積 <input type="checkbox"/> 空間図形への応用	
11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学A」第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節 整数の性質の活用	<input type="checkbox"/> 約数と倍数 <input type="checkbox"/> 最大公約数・最小公倍数 <input type="checkbox"/> 整数の割り算と商・余り <input type="checkbox"/> ユークリッドの互除法 <input type="checkbox"/> 1次不定方程式 <input type="checkbox"/> 分数と小数 <input type="checkbox"/> n進法	
		「数学Ⅱ」第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式と不等式の証明	<input type="checkbox"/> 3次式の展開と因数分解 <input type="checkbox"/> 二項定理 <input type="checkbox"/> 整式の割り算 <input type="checkbox"/> 分数式とその計算 <input type="checkbox"/> 恒等式 <input type="checkbox"/> 等式の証明 <input type="checkbox"/> 不等式の証明	
		「数学Ⅱ」第2章 複素数と方程式	<input type="checkbox"/> 複素数 <input type="checkbox"/> 2次方程式の解と判別式 <input type="checkbox"/> 解と係数の関係 <input type="checkbox"/> 剰余の定理と因数定理 <input type="checkbox"/> 高次方程式	

※ 課題テスト(9月・1月)：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト(7月・11月・1月)：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

※ 小テスト：各章ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する。

平成31年度 年間学習計画表 **理数**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS数学I		5	数学I、数学A、数学II [数研出版]	教科書傍用問題集、参考書
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学I」第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	<input type="checkbox"/> 整式の加法と減法 <input type="checkbox"/> 整式の乗法 <input type="checkbox"/> 因数分解 <input type="checkbox"/> 実数 <input type="checkbox"/> 根号を含む式の計算 <input type="checkbox"/> 不等式の性質 <input type="checkbox"/> 1次不等式 <input type="checkbox"/> 絶対値を含む方程式・不等式	
		「数学I」第5章 データの分析	<input type="checkbox"/> データの整理 <input type="checkbox"/> データの代表値 <input type="checkbox"/> データの散らばりと四分位数 <input type="checkbox"/> 分散と標準偏差 <input type="checkbox"/> データの相関	
		「数学I」第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	<input type="checkbox"/> 関数とグラフ <input type="checkbox"/> 2次関数のグラフ	
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学I」第3章 2次関数 第2節 2次関数の値と変化 第3節 2次方程式と2次不等式	<input type="checkbox"/> 2次関数の最大・最小 <input type="checkbox"/> 2次関数の決定 <input type="checkbox"/> 2次方程式 <input type="checkbox"/> 2次関数のグラフとx軸の位置関係 <input type="checkbox"/> 2次不等式	
		「数学I」第2章 集合と命題	<input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> 命題と条件 <input type="checkbox"/> 命題と証明	
		「数学A」第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	<input type="checkbox"/> 集合の要素の個数 <input type="checkbox"/> 場合の数 <input type="checkbox"/> 順列 <input type="checkbox"/> 組合せ	
9月 ～ 10月	2学期 中間	「数学A」第1章 場合の数と確率 第2節 確率	<input type="checkbox"/> 事象と確率 <input type="checkbox"/> 確率の基本性質 <input type="checkbox"/> 独立な試行と確率 <input type="checkbox"/> 条件付き確率	
		「数学A」第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	<input type="checkbox"/> 三角形の辺の比 <input type="checkbox"/> 三角形の外心・内心・重心 <input type="checkbox"/> チェバの定理・メネラウスの定理 <input type="checkbox"/> 円に内接する四角形 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2つの円 <input type="checkbox"/> 作図 <input type="checkbox"/> 直線と平面 <input type="checkbox"/> 空間図形と多面体	
		「数学A」第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法	<input type="checkbox"/> 約数と倍数 <input type="checkbox"/> 最大公約数・最小公倍数 <input type="checkbox"/> 整数の割り算と商・余り <input type="checkbox"/> ユークリッドの互除法 <input type="checkbox"/> 1次不定方程式	
11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学A」第3章 整数の性質 第3節 整数の性質の活用	<input type="checkbox"/> 分数と小数 <input type="checkbox"/> n進法	
		「数学I」第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	<input type="checkbox"/> 三角比 <input type="checkbox"/> 三角比の相互関係 <input type="checkbox"/> 三角比の拡張 <input type="checkbox"/> 正弦定理 <input type="checkbox"/> 余弦定理 <input type="checkbox"/> 正弦定理と余弦定理の応用 <input type="checkbox"/> 三角形の面積 <input type="checkbox"/> 空間図形への応用	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学II」第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	<input type="checkbox"/> 一般角と弧度法 <input type="checkbox"/> 三角関数 <input type="checkbox"/> 三角関数の性質 <input type="checkbox"/> 三角関数のグラフ <input type="checkbox"/> 三角関数の応用 <input type="checkbox"/> 加法定理 <input type="checkbox"/> 加法定理の応用 <input type="checkbox"/> 三角関数の合成	
		「数学II」第5章 指数関数と対数関数	<input type="checkbox"/> 指数の拡張 <input type="checkbox"/> 指数関数 <input type="checkbox"/> 対数とその性質 <input type="checkbox"/> 対数関数 <input type="checkbox"/> 常用対数	

※ 課題テスト(9月・1月) : 長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト(7月・11月・1月) : それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

※ 小テスト : 各章ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する。

4 理科

化学基礎

授業の取り組み方

- 授業のたび、副教材の「アクセスノート」や「セミナー」で問題演習を行い、学習内容の理解度を確認しましょう。不明なところがあったら、なるべく早く克服しましょう。化学の授業は既習内容を用いて次の内容を学習することがほとんどなので、不明なところを放置していると、連続的に分からなくなってしまう。
- 「アクセスノート」は用語の確認や基礎演習が多く、普段の学習に向いています。一方、「セミナー」は標準演習が多く、定期考査対策の学習に向いています。授業では指定した副教材を使いますが、それとは別の自身の学習スタイルに合った参考書・問題集を用意しておきましょう。
- タブレットを有効に活用しましょう。「スタディサプリ」は普段の予習・復習にうってつけですし、気になる実験があれば「You Tube」で実際の様子を確認することもできます。

平成31年度 年間学習計画表 普通

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
化学基礎		2	改訂版 化学基礎 (数研出版)	アクセスノート 化学 改訂版 (実教出版) 2019 セミナー 化学基礎+化学 (第一学習社)
月	テスト	進度 (単元)		自己チェック項目
4月 ~ 5月	1学期 中間	1-1. 物質の構成 ① 純物質と混合物 ② 物質とその成分 ③ 物質の三態と熱運動		<input type="checkbox"/> 純物質と混合物 <input type="checkbox"/> 物質の分離・精製 <input type="checkbox"/> 原子と元素 <input type="checkbox"/> 単体と化合物 <input type="checkbox"/> 同素体 <input type="checkbox"/> 成分元素の検出 <input type="checkbox"/> 粒子の熱運動 <input type="checkbox"/> 絶対温度 <input type="checkbox"/> 物質の三態 <input type="checkbox"/> 状態変化
		1-2. 物質の構成粒子 ① 原子とその構造 ② イオン ③ 周期表		<input type="checkbox"/> 原子の構造 <input type="checkbox"/> 同位体 <input type="checkbox"/> 電子配置 <input type="checkbox"/> 価電子 <input type="checkbox"/> イオン <input type="checkbox"/> イオン化エネルギーと電子親和力 <input type="checkbox"/> 周期表 <input type="checkbox"/> 元素の分類 <input type="checkbox"/> 同族元素
6月 ~ 7月	1学期 期末	1-3. 粒子の結合 ① イオン結合 ② 分子と共有結合 ③ 分子間にはたらく力 ④ 共有結合結晶 ⑤ 金属結合		<input type="checkbox"/> イオン結合とイオン結晶 <input type="checkbox"/> 分子 <input type="checkbox"/> 電子式と構造式 <input type="checkbox"/> 分子模型 <input type="checkbox"/> 配位結合 <input type="checkbox"/> 高分子化合物 <input type="checkbox"/> 電気陰性度 <input type="checkbox"/> 極性 <input type="checkbox"/> 分子間力 <input type="checkbox"/> 分子結晶 <input type="checkbox"/> 共有結合結晶 <input type="checkbox"/> 金属結合 <input type="checkbox"/> 金属とその利用
9月 ~ 10月	2学期 中間	2-1. 物質質量と化学反応式 ① 原子量・分子量・式量 ② 物質質量 ③ 化学反応式と物質質量		<input type="checkbox"/> 原子の相対質量 <input type="checkbox"/> 原子量 <input type="checkbox"/> 分子量・式量 <input type="checkbox"/> アボガドロ数と物質質量 <input type="checkbox"/> 物質質量と質量 <input type="checkbox"/> 物質質量と気体の体積 <input type="checkbox"/> 溶液の濃度 <input type="checkbox"/> 溶解度 <input type="checkbox"/> 化学反応式 <input type="checkbox"/> イオン反応式 <input type="checkbox"/> 化学反応式が表す量的関係 <input type="checkbox"/> 化学の基礎法則
11月 ~ 12月	2学期 期末	2-2. 酸と塩基の反応 ① 酸・塩基 ② 水の電離と水溶液のpH ③ 中和反応 ④ 塩		<input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義 <input type="checkbox"/> 酸と塩基の価数、強弱 <input type="checkbox"/> pH <input type="checkbox"/> 中和反応 <input type="checkbox"/> 中和反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 中和滴定 <input type="checkbox"/> 滴定曲線 <input type="checkbox"/> 塩とその分類
1月 ~ 3月	3学期 学年末	2-3. 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤 ③ 金属の酸化還元反応 ④ 酸化還元反応の利用 — 電池・金属の製錬 —		<input type="checkbox"/> 酸化と還元の定義 <input type="checkbox"/> 酸化数 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向 <input type="checkbox"/> イオン化傾向と金属の反応性 <input type="checkbox"/> 電池の構造と反応 <input type="checkbox"/> 金属の製錬 <input type="checkbox"/> 電気分解

平成31年度 年間学習計画表 **普通**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
物理基礎		2	改訂版 物理基礎 (数研出版)	2019セミナー物理基礎 (第一学習社) レポート&チャージ物理基礎ドリル (実教出版)
【到達目標】		① 基本的な概念や原理、法則を理解し、物理学的に探求する能力と態度を育てます。 ② 物理的な事象の観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高めます。		
【学習の仕方】		① 授業で学習した内容について、教科書にある問題や問題集の問題を解くこと ② 補習に参加するなどしてレベルの高い問題にも触れた方がよい。		
【学習上の留意点】		① 授業で扱えなかった、セミナーの問題を日頃から解いておくこと ② 初めは中学校の復習のため良い点数も取れるがここで根本を疎かにすると、いつの間にかできなくなるので、必ず授業中に理解する問題を解けるようにしておいた方がよい。 ③ 算数の文章題のような科目なので、日頃から国語力を高める工夫をしてほしい。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	運動の表し方 落下の運動	<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける	
6月 ～ 7月	1学期 期末	力のつり合い 運動の法則	<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける	
9月 ～ 10月	2学期 中間	仕事と力学的エネルギー 熱とエネルギー	<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける	
11月 ～ 12月	2学期 期末	波の性質	<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	音 物質と電気 磁場と交流	<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける	

*課題考査はありません

*1年生では実力テスト・進研模試もありません

SS生物

(1) 予習・復習について

生物の予習、復習は、苦手な人以外は必要ありません。特に、必要な場合は、教科担当からアドバイスがあります。

(2) 授業について

先生の話をしっかり聞いて、必要なことは自分でメモしましょう。また、授業中、分からないところがあれば、すぐに聞いて下さい。生物基礎と生物で、重複している部分がありますが、SS理数生物では、これらも1、2学年のうちから学んでいきます。また、教科書には、発展や参考といった内容が、数多く掲載されています。授業で全てやることはできませんが、内容を理解しておく必要があります。

(3) 実験について

生物実験を行います。実験後は、指定された様式で、プリントやレポートを提出してもらいます。実験内容を十分に理解し、その他の資料も参考にして、レポートを作成してください。提出期限厳守です。

(4) 考査およびその学習方法について

考査範囲は、教科書のページと問題集の番号を伝えます。

生物の学習は、教科書を理解し、その後、問題集を解くと良いでしょう。問題数がかかなりあるので、考査2週間前には準備を始めましょう。基本問題から発展問題まで十分に理解できれば、考査、センター試験、個別試験に対応できる学力がつきます。

平成31年度 年間学習計画表 **理数**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS生物		2	高等学校改訂生物基礎 高等学校改訂生物 第一学習社	セミナー生物基礎+生物 図説
【到達目標】		① 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ② データーの読み方を身につける。 ③ センター試験および、個別試験に対応できる学力を養う。		
【学習上の留意点】		① 生物基礎を中心に学ぶ。(進度は、第3章途中までとなる。) ② 生物基礎と項目が重なっている分野は、生物の内容も含め学ぶ。 ③ 定期考査は、センター試験、個別試験に対応するレベルとなる。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性	<input type="checkbox"/> 生物の共通性と多様性の起源 <input type="checkbox"/> 細胞の構造にみられる共通性	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2節 細胞とエネルギー	<input type="checkbox"/> 代謝とエネルギー <input type="checkbox"/> 代謝と酵素(+生物分野)	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体の構造 第2節 遺伝情報の複製と分配	<input type="checkbox"/> 遺伝子の本体(+生物分野) <input type="checkbox"/> DNAの構造(+生物分野) <input type="checkbox"/> 細胞周期 <input type="checkbox"/> 遺伝情報とタンパク質(+生物分野)	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第3節 遺伝情報 とタンパク質の合成 第3章 生物の体内環境 第1節 体液とその働き	<input type="checkbox"/> タンパク質の合成(+生物分野) <input type="checkbox"/> 遺伝子とゲノム <input type="checkbox"/> 細胞内での遺伝子の発現 <input type="checkbox"/> 体液と物質の輸送	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第2節 体内環境の維持のしくみ	<input type="checkbox"/> 自律神経系の働きと構造 <input type="checkbox"/> 内分泌腺による調節 <input type="checkbox"/> 自律神経系と内分泌腺による調節	

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：なし

SS 化学

化学とはどのような学問か

1 読み書き算盤ケミストリー

ヒトが体温を保ち、組織や細胞を日々つくり替える営みは、いろいろな分子やイオンが活躍する化学の世界。さらに化学は、物質の成り立ちと性質を分子レベルでつきとめ、新しい物質や材料をつくるサイエンスでもある。テレビも携帯電話も衣料も医薬品も、化学の知識と技術がなければ生まれていない。

生きていく上で大切な資質、知識、方法としての「化学」。様々な商品のウソに騙されず、知るべきことを知らないために自分や、愛する未来の家族を護るために必要な知識。知識は「ちから」である。賢く生きるため、騙されずに生きていくために必要な武器。知っていて当然の教養。だから、「読み書き算盤ケミストリー」。

2 学習の注意点

(1) 配布する授業プリント

実験方法や基本的な問題などを全て含んでいる。空欄は授業で学習しながら埋めていくが、全体に目を通して、該当する教科書の記載を確認しておこう。

また、記載されている実験の映像は必ず予習をしておく。特に実験の場合は、実験方法についての説明は授業では基本的に行わない。事実上の反転学習を行う。したがって、予め学んでこないと全く実験できなくなる可能性が大きいから、注意すること。

(2) タブレットの利用

ア) 実験映像の視聴

北高化学科独自の実験映像が約300タイトル、YouTube にアップロードしてある。これは、授業用プリントに連動している映像であるため、場合によってはプリントと共に視聴しないと理解できない場合があるので注意しよう。

YouTube にアップロードしているのは、タブレットや、スマホや家庭の PC でも視聴できる学習環境を整えている。検索ワード「ASNR プリント黒板 (*授業プリント記載の実験番号)」

イ) 実験のツールとして

- ① 実験の手順の確認には、配布する学習プリントと YouTube の映像が重要である。これらの情報源として用いる。
- ② 実験の記録として、静止画・動画を撮るカメラとして用いる。
- ③ 実験データを数値化して記録する場合、エクセルなどのソフトを起動してリアルタイムで実験の進み方を検証するツールとして用いる。

ウ) 実験データの共有

イ)②及び③のデータは、サーバーの提出フォルダに投稿することで、電子黒板ビックパッドの画像によって、全員で共有する。

エ) 受験サプリの受講

授業の予習にも使えるが、むしろ復習に用いる方が重要であり、かつ、効果的である。問題演習の授業では、受験サプリのコンテンツを、反転学習の教材として用いるので、予め視聴して学習しておくことが必須となる。受講状況をチェックしているので、授業進度に遅れないように視聴していこう。

3 問題集・参考書の利用

授業の予習として、「アクセスノート ポイントチェック」、「セミナー化学基礎+化学 プロセス・ドリル」を行っておく。復習として、授業直後に、「アクセスノート EXERCISE」、「セミナー化学基礎+化学 基本例題・基本問題」に取り組む。そして、試験対策として、毎週土・日などにまとめて、セミナー発展例題・発展問題に、計画的に取り組んでいこう。また、受験サプリの受講と並行して取り組むとより効果的である。

また、参考書としては、三省堂化学の新研究、啓林館・化学の新体系を推奨する。

平成31年度 年間学習計画表 理数

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS化学		2	数研 改訂化学基礎 改訂化学	セミナー化基+化学 アクセスノート化学基礎 化学
月	テスト	学習のねらい・自己チェック項目		
4月 ～ 5月	1学期 中間	序編 化学と人間生活 1 人間生活のなかの化学 環境リスクと物質使用量 第1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素	<ul style="list-style-type: none"> ・物質について学ぶ学問としての化学 ・物質の安全な使用量 ・電子殻(K, L, M・・・)と最大収容電子数, 電子配置, 価電子, 希ガス原子の電子配置 ・元素の周期律, 元素の周期表とその構造 	
6月 ～ 7月	1学期 期末	3章 化学結合	<ul style="list-style-type: none"> ・陽イオン, 陰イオン, イオンの生成, 価数, イオン式 ・原子とイオンの大きさ, イオン半径 ・共有結合による分子の形成 ・分子間力と液体の沸点 ・分子結晶(二酸化炭素, ヨウ素) ・氷の結晶構造と水素結合 ・共有結合の結晶, ダイヤモンドと黒鉛, ケイ素と二酸化ケイ素 ・化学結合と物質の性質 	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の相対質量に同位体の存在比を考慮した原子量 ・構成原子の原子量の総和 ・アボガドロの法則, ・化学反応式の書き方(反応物, 生成物, 係数), イオン反応式 ・係数の比(分子数, 物質量, 体積), 反応物の過不足 	
11月 ～ 12月	2学期 期末	2章 酸と塩基 3章 水素イオン濃度と pH(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・酸の性質(酸性), 塩基の性質(塩基性) ・アレニウスの定義 ・ブレンステッド・ローリーの定義 ・中性, $[H^+]$と$[OH^-]$の定義, 1価の酸塩基の$[H^+]$, $[OH^-]$と電離度, 酸性塩基性と$[H^+]$と$[OH^-]$の関係 ・$[H^+]=10^{-n}mol/L$のとき $pH=n$, 水素イオン指数 	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	3章 水素イオン濃度と pH(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・$K_w=[H^+][OH^-]=1.0 \times 10^{-14}(mol/L)^2$ ・pH 指示薬(メチルオレンジ, フェノールフタレイン, プロモチモールブルー(BTB)等), 変色域, pH メーター, pH 試験紙, 万能 pH 試験紙 ・中和反応と塩の生成 ・中和の条件; 酸の価数\times酸の物質量=塩基の価数\times塩基の物質量 (酸から生じる H^+の物質量=塩基から生じる OH^-の物質量), 酸・塩基の強弱と中和の量的関係 ・中和滴定と操作, 標準溶液, 中和点 ・塩の種類とその性質 	

平成31年度 年間学習計画表 **理数**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS物理		2	改訂版 物理基礎 (数研出版)	2019セミナー物理基礎+物理 (第一学習社) レポート&チャージ物理基礎ドリル (実教出版)
【到達目標】		① 基本的な概念や原理、法則を理解し、物理学的に探求する能力と態度を育てます。 ② 物理的な事象の観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高めます。		
【学習の仕方】		① 授業で学習した内容について、教科書や問題集の問題を解くこと ② 補習に参加するなどしてレベルの高い問題にも触れた方がよい。		
【学習上の留意点】		① 授業で扱えなかった、セミナーの問題を日頃から解いておくこと ② 初めは中学校の復習のため良い点数も取れるがここで根本を疎かにすると、いつの間にかできなくなるので、必ず授業中に理解する問題を解けるようにしておいた方がよい。 ③ 算数の文章題のような科目なので、日頃から国語力を高める工夫をしてほしい。 ④ 各分野ごとに授業を進めていくので根本的な考え方を理解してほしい。		
月	テスト	進度 (単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	物体の運動 落下の運動		<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける
6月 ～ 7月	1学期 期末	力のつり合い 運動の法則		<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける
9月 ～ 10月	2学期 中間	剛体にはたらく力 力学的エネルギー		<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける
11月 ～ 12月	2学期 期末	熱とエネルギー 気体の法則と分子運動		<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける
1月 ～ 3月	3学期 学年末	波の性質 音波		<input type="checkbox"/> ① リポート&チャージ物理基礎ドリルの問題は解ける <input type="checkbox"/> ② プロセスの問題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本例題・基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展例題・発展問題は解ける

*課題考査はありません

*1年生では実力テスト・進研模試もありません

5 保健体育

(1) 高等学校で体育を学ぶ意義

高校教育の中で、体育に課せられた使命を考えてみよう。

君達が生きている現代は、IT機器の発達と普及、医学の進歩、機械化による労力の軽減、更に余暇においても機械抜きでは楽しめない時代である。情報があふれ、人と人とのコミュニケーションも大きく変化し、精神的緊張を強いる社会の中での生活は君達に多くのストレスを与えてくる。このような時代では、身体と精神を逞しく維持していかなければ、健康に生きていけない。なぜならば、人間らしさは機械の力にだけ頼ってはいられないからだ。このように考えると、有意義な人生を送るためには、健全な精神と堅強な身体とを兼ね備えることが重要となる。スポーツの重要性はまさにここで発揮され、成長期の最終段階における高校期に体育を学ぶことによりその充実と発達が期待できる。

高等学校における体育の授業において理論や内容は、単なる知識の獲得だけではない。自らの生活の中に取り入れ、生涯にわたり活用することによって、初めてその体育授業が生かされてくる。

本校では、君達がより積極的に授業に取り組み、高度なスポーツの経験と科学的な運動(スポーツ)理論を学び、正しい運動方法によって、将来にわたる運動・スポーツを实践できる知識と技能を獲得することを目指している。

(2) 体育の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 健康な人生を送るための体力向上
2. 自ら進んで継続して身体活動を実践するための知識と技能の習得
3. 礼節を重んじ、仲間と協同し責任を持って行動できる精神の育成

(3) 1学年の学習について

1. 指導目標

- ・ 各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正・協力・責任等の態度と積極的に運動する能力と態度を育てる。
- ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できるようにする。
- ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等も学ぶ。

2. 評価について

授業態度(積極的な活動、体力の向上・技能の習得)、出欠状況、スキルテストの内容、個人・グループノートの内容、ルールやマナーの理解度を基に以下の4つの観点から総合的に評価する。

運動の技能

- ・ 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行っている。
- ・ 各種目の特性にあった運動技能を高めている。
- ・ 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。

関心・意欲・態度

- ・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正・協力・責任などの態度が身に付いている
- ・ 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片付けや施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。
- ・ 健康・安全に留意して自ら運動をしようとしている。

思考・判断

- ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指している。
- ・課題を解決するために、活動の仕方を考え、工夫している。

知識・理解

- ・運動技能の構造と運動の学び方理解し、知識を身に付けている。
- ・各種目のルールや練習法を理解し、知識を身に付けている。
- ・体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3. 授業について

1) 単位数 普通科3単位・理数科2単位

2) 授業内容について

① 時間厳守

- ・授業には定刻前に余裕を持って集合する。集合場所については体育委員が事前に教科担当に確認し、クラスの生徒に連絡をする。
- ・特に1時限目に授業がある時は、朝のSHR前に更衣をすませ授業開始時刻に遅れないように努力する。

② 出席重視

- ・体育は実技科目なので特に出席を重視する。授業に対する姿勢・態度を重視するので授業に前向きに取り組むことが重要である。
- ・やむを得ず見学をする場合は生徒手帳の諸届・許可欄に必要事項を記入し、授業の1時間前に教科担当に報告し、指示を受ける。傷病等で長期にわたって見学をする場合は、診断書等の提出をする。

③ 体育着等の保管

- ・体育で使用するものにはすべて記名をし、各自の責任において保管すること。常に清潔に保つことにも留意する。特に体育館シューズ・シューズ袋には大きな字で記名し、他の生徒のシューズと取り違えることのないようにする。

④ 大きな声で体操・挨拶

- ・授業時の挨拶は大きな声でし、体操・補強等の号令も全員で大きな声でかける。

⑤ 貴重品の管理

- ・体育授業時に教室や更衣室で更衣をする際には各自の貴重品は個人ロッカーに入れ、各自で管理すること。

⑥ 安全確認

- ・用具の出し入れは、自ら進んで行き、安全に活動できるように留意する。自分の健康管理、安全はもとより、周囲のものの安全にも心がける。

3) 授業の進め方（体育実技）

授業の進め方は概ね以下の通りである。

ランニング→集合→あいさつ・点呼→体操・補強→本時の説明→「活動」→整理体操→あいさつ

4) 柔道着・水着・長袖Tシャツの販売について

購入案内文書の配布、申込み、販売については以下の通りである。

	文書の配布	申込み	販売
柔道着	4月上旬	無し	4月下旬
水着	5月上旬	5月中旬	5月下旬
長袖Tシャツ	9月下旬	10月上旬	10月下旬

販売場所は本校体育館入り口で行う。販売当日、代金(おつりのないよう)を持参し受け取る。

※ 柔道は男子の体育授業で履修する。使用できる柔道着を持っている場合を除き、男子は全員購入する。

- ※ 水泳は男女とも1・2学年で履修する。中学校の体育等で使用したスクール水着(黒・紺系色)・水泳帽を所持されている場合を除き、全員が購入する。
- ※ 長袖Tシャツ(ネーム刺繍有)は希望者を対象に販売する。

5) その他

- ・4月～10月は半袖 or 長袖Tシャツ、男子短パン、女子ハーフパンツ。
- ・禁止事項：ルーズソックス、レッグウォーマー、タイツ、ストッキング、アクセサリ類・マニキュア、ジャージ期間のワイシャツ着用
- ・ジャージの裾を切っているジャージは授業中の着用不可。
- ・体育用のソックスを用意。
- ・健康上の不安、相談がある場合には教科担当等によく聞く。

(4) 学習内容

領域	領域の内容・単元	第1学年		第2学年		第3学年	備考	
		男	女	男	女	男女共修		
体育理論		●	●	○	○	○		
体づくり	体力を高める運動(持久走)	●	●	○	○	○		
	体をほぐす運動	●	●	○	○	○		
陸上競技	長距離走	●	●	○	○	○		
	三種競技(走・跳・投)	●	●			□※1		
水泳	各種泳法	●	●	○	○		※2	
	遠泳・競泳(複数の泳法)	●	●	○	○	□※1	※3	
武道	柔道	●		○		□※1		
器械運動	マット運動		●	○			※4	
	跳び箱運動		●	○		□※1		
	鉄棒運動		●	○				
球技	ゴール型	バスケットボール		●	○		□※1	
		ハンドボール	●				□※1	
		サッカー	●	●			□※1	
	ネット型	バレーボール			○	○	□※1	
		テニス					□※1	
		バドミントン					□※1	
		卓球					□※1	
	ベースボール型	ソフトボール					□※1	

※1 選択授業

※2 1年次にクロール・平泳ぎ、2年次に背泳ぎ・バタフライを行う

※3 1年次は2種類の泳法・2年次は4種類の泳法で行う

※4 3種目の運動の中から1種目または2・3種目を行う

平成31年度 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名		副教材等			
体育		普通3 理数2	現代高等保健体育					
【到達目標】		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能の習得と、体力の向上が見られる。 ・ 公正・協力・責任等の態度と積極的に運動する能力と態度が身につく。 ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できる。 ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等を習得する。 						
学期	月	男子		女子		自己チェック項目		
		領域	内容	領域	内容			
第一学期	4月	上旬	体育理論（スポーツの歴史的発展と変容・スポーツの技術，戦術，ルールの変化）					
		中旬	体作り運動	体力を高める運動	体作り運動	体力を高める運動		
		下旬	陸上競技	持久走 1500m	陸上競技	持久走 1000m		
	5月	上旬		三種競技（走・跳・投）	器械運動	マット運動		
		中旬					鉄棒	
		下旬						
	6月	上旬	水泳	泳法（クロール・平泳ぎ） 距離泳・時間泳	水泳	泳法（クロール・平泳ぎ） 距離泳・時間泳		
中旬								
7月	上旬							
第二学期	9月	上旬	体作り運動	体ほぐし運動	体作り運動	体ほぐし運動		
		中旬	球技	ハンドボール	陸上競技	三種競技（走・跳・投）		
		下旬						
	10月	上旬	武道	柔道	球技	サッカー		
		中旬						
	下旬							
11月	上旬	体育理論（オリンピックムーブメントとドーピング）						
	中旬	陸上競技	長距離走 約5km	陸上競技	長距離走 約4km			
	下旬							
12月	上旬	武道	柔道	球技	サッカー			
中旬								
第三学期	1月	上旬	体作り運動	体力を高める運動	体作り運動	体ほぐし運動		
		中旬	球技	サッカー	球技	バスケットボール		
		下旬						
	2月	上旬						
		中旬						
	下旬							
3月	上旬							
中旬	体育理論（スポーツの経済的効果とスポーツ産業）							

(5) その他

保健

(1) 高等学校で保健を学ぶ意義

大学受験に「保健」は必要なのか！

大学受験の小論文のテーマに保健・環境・医療問題がテーマになることはあっても受験科目に「保健」は存在しない。しかし、君達は間違いなく「ストレス社会」・「超高齢化社会」・「自然環境の崩壊」・「ネット異存社会」の中で生活している。更に、一生この中で生きていかなければならない。

情報化社会は君達に十分すぎる情報を提供するとともに、大きなストレスを与えている。技術の進歩は生活を豊にしてくれるとともに、人と人との直接的なコミュニケーションを阻害している。医学や医療の進歩により平均寿命は世界トップになり、価値観の多様化による少子化とかさなり、近い将来確実に超高齢化社会が訪れる。

法律の改正により 18 才から選挙権が与えられる。高校 1・2 年次に「医療保険制度・介護保険・公衆衛生等の我が国における社会構造」について学び、「環境問題・医療問題・社会問題等の本質は何か」を考えることは有権者の義務であり責任である。

これらのことを知識としてとらえるだけではなく、自分の問題として解決しようとする心と態度を育てることが本校の「保健」授業のテーマである。

(2) 保健の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための資質や能力の育成
2. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、正しく判断し行動できる能力の育成

(3) 1 学年の学習について

1. 指導目標

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

2. 評価について

各学期の期末考査の得点を基準とし、以下の項目を加え総合的に評価する。

- 授業における提出物・レポート・課題・ノートの内容
- 長期休業中におけるフィールドワークレポートの内容
- 個人やグループの課題研究の内容
- 様々なレポートや研究活動の発表の内容やそれに対する評価

平成31年度 年間学習計画

科目名等			単位数	教科書名	副教材等
保健			1	現代高等保健体育（大修館書店）	
学期	月	領域	内容		備考
第一学期	4月	現代社会と健康	私たちの健康のすがた・健康のとらえ方		
			健康と意志決定・行動選択		
			健康に関する環境づくり		
	5月		生活習慣病とその予防		
			食事と健康		
			運動と健康		
	6月		休養・睡眠と健康		
喫煙と健康					
飲酒と健康					
7月	上旬	薬物乱用と健康		期末考査	
第二学期	9月	現代の感染症			
		感染症の予防			
		性感染症とその予防			
	10月	欲求と適応機制			
		心身の相関とストレス			
	11月	ストレスへの対処			
		心の健康と自己実現		期末考査	
12月	上旬 中旬				
第三学期	1月	交通事故の現状と要因			
		交通社会における運転者の資質と責任			
		安全な交通社会づくり			
	2月	応急手当の意義とその基本			
		心肺蘇生法			
		日常的な応急手当			
	3月	心肺蘇生法の実習		学年末考査	

参考資料

高等学校学習指導要領 内容のまとめ「保健体育」

6 芸術

音楽科

1 目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 評価の観点

- 音楽への関心・意欲・態度
- 音楽表現の創意工夫
- 音楽表現の技能
- 鑑賞の能力

3 1年次の学習内容

(1) 【表現】

- ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏すること
- イ 曲想に応じた発声、楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること
- ウ 様々な表現形態による歌唱や器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること
- エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること

(2) 【鑑賞】

- ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること
- イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること
- ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること
- エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること

4 学習の仕方

- 授業には、教科書・My Song・音楽通論・ノート（5線譜）・筆記用具・タブレットを毎回持参してください。
- 実技を伸ばすためには授業に集中し、学習ポイントを理解し、習得しようとする意欲が大切です。
- 筆記テストはありません。各学期末に音楽ノートとプリントを提出してもらい評価に加えています。
- 実技テストは、ソロ・デュオ・アンサンブルと様々な形式で行います。
- 楽曲についてPC等を活用するなど、普段から音楽に対する興味関心を持つようにしてみましょう。

《例》

- 発声・ボイストレーニングについて調べ練習してみる
- 合唱曲のパート別・伴奏の音源を聞いて練習してみる
- 楽器奏法について調べ、様々な作品や演奏を聴いてみる
- 劇音楽について調べ、演出やキャストを変えて鑑賞してみる
- 他教科の知識も活用し、楽曲の社会背景について調べてみる など

平成31年度 年間学習計画

科目名等	単位数	教科書名	副教材等
音楽 I	2	高校生の音楽 I	My Song・音楽通論
【到達目標】	① 心身の成長に応じた基礎的な表現力をつけます ② 音楽を構成する要素や音楽の仕組みを知り、表現や鑑賞に活かします ③ 音楽を通じて創造性や協同的に関わる力をつけます		
【学習上の留意点】	① 定期考査（筆記）は実施しませんが、授業内に実技テストを行います。 ② 授業に積極的に参加し、表現しようという主体的な姿勢が大切です。 ③ データやノート・プリント等の提出物も重視します。		
月	進度（単元）	自己チェック項目	
4～7月	斉唱	<input type="checkbox"/> 姿勢を意識して発声しているか <input type="checkbox"/> 声の響きを身体で感じて発声しているか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 積極的に声を出そうとしているか。 <input type="checkbox"/> 自分の声部を捉えて表現しているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> 能動的に聴く姿勢ができているか <input type="checkbox"/> 管弦楽に興味を持ち理解して聴取できているか	
	器楽	<input type="checkbox"/> リズムを理解して表現しているか <input type="checkbox"/> リズムを創作して表現できるか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（音の長さ）を理解しているか <input type="checkbox"/> 音楽の要素（音の長さ）を意識して表現しているか	
9～12月	斉唱	<input type="checkbox"/> 姿勢や声の響きを意識して発声しているか <input type="checkbox"/> 歌詞に合わせた発音や発声を意識しているか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 主旋律を意識して表現することができるか <input type="checkbox"/> 声部の役割を理解して表現しているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> 楽器の構造に興味を持ち鑑賞しているか <input type="checkbox"/> 楽器の音色や役割について興味を持ち鑑賞しているか	
	器楽	<input type="checkbox"/> 鍵盤楽器に興味を持ち表現しようとしているか <input type="checkbox"/> 鍵盤楽器で平易な曲を演奏することができるか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（音の高さ）を理解しているか <input type="checkbox"/> 音楽の要素（音の高さ）を意識して表現しているか	
1～3月	斉唱	<input type="checkbox"/> 姿勢や声の豊かな響きを意識して発声しているか <input type="checkbox"/> 言語に合わせた発音や発声を意識しているか	
	合唱	<input type="checkbox"/> 対旋律を意識して表現することができるか <input type="checkbox"/> 声部の役割を理解して表現しているか	
	鑑賞	<input type="checkbox"/> 楽曲の構成に興味を持ち鑑賞しているか <input type="checkbox"/> 音楽の歴史に興味を持ち鑑賞しているか	
	楽典	<input type="checkbox"/> 音楽の要素（記号）を理解しているか <input type="checkbox"/> 音楽の要素（記号）を意識して表現しているか	

美術科

1 美術ってなに

美術って何だろう。みなさんの身の回りを見渡して見て下さい。家具がありますね、建物がありますね、服をまとっていますね、スマホを持っていますね。これらすべての物は美術に関係したものです。現代の美術は、生活の一部であり社会とのかかわりが大きい分野です。そして、社会を見渡せば美術に関連した仕事や商品などがたくさんあります。

では、なぜ学ぶのだろうか。美術を学ぶ意味は、作品を描き作ることを通して「人間を知ること」です。例えば、文学でも歴史学・経済学でも人間を研究する学問であり、また理数系も自然界の法則について研究する物理や化学や数学や薬学などありますが人間の体内での化学変化などを調べているわけです。分野や方法は違っても人間を知ることには変わりはないのです。美術を通して試行錯誤を繰り返し、自分と向き合ってみましょう。

2 目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化について理解を深める。

3 評価の観点

- 美術への関心・意欲・態度
- 発想や構想の能力
- 創造的な技能
- 鑑賞の能力

4 1年次の学習内容

(1) 【絵画】

- ア 感じ取ったことや考えたことから主題を生成する。
- イ 表現形式の特徴を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練る。
- ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かす。
- エ 表現方法を工夫し、主題を追求して表現する。

(2) 【デザイン】

- ア 目的、機能、美しさなどを考え主題を生成する。
- イ 表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。
- ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かす。
- エ 表現方法を工夫し、目的や計画をもとに表現する。

5 その他

- 必要な美術道具については、授業が開始されてからお知らせします。
- 美術系及び建築系への進学を考えている者は、実技試験や作品が必要になるので早めに試験対策に取り組んでください。
- 夏季休業中の課題は、必要に応じて提示していきます。

平成31年度 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
美術 I		2	高校生の美術 1 (日本文教出版)	
【到達目標】		①油絵の制作を通して基礎・基本を踏まえて対象を深く観察し、造形美の表現を学びます。 ②視覚伝達デザインの基礎を理解し、社会と美術のかかわりについて学びます。		
【学習上の留意点】		①授業時間ごとの取り組みや提出物を重視しますので、毎時間完結するつもりで受講してください。 ②中間及び期末テストは実施しません。		
月	テスト	進度 (単元)		自己チェック項目
4月～ 5月	1学期 中間 未実施	≪作品制作≫ 油絵「静物画」		<input type="checkbox"/> デッサンについて学ぶことができたか。 <input type="checkbox"/> 幾何形体を使い、形の取り方について理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構図の取り方を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 静物画をデッサンする。 <input type="checkbox"/> 油絵の道具を適切に扱うことができたか。
6月～ 7月	1学期 期末 未実施	≪作品制作≫ 油絵「静物画」		<input type="checkbox"/> 着色の表現について理解できたか。(おつゆ描き) <input type="checkbox"/> 油絵の特徴を生かし石膏や透明瓶などのモチーフを描くことができたか。 <input type="checkbox"/> 作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間 未実施	≪作品制作≫ デザイン「果物を使った平面構成」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> 社会とデザインの関わりが理解できたか。 <input type="checkbox"/> 果物の特徴を捉えてデッサンスケッチができたか。 <input type="checkbox"/> 果物をイラスト化するために発想の工夫がみられるか。 <input type="checkbox"/> 作品の完成度を高めることができたか。 <input type="checkbox"/> 質感の表現や配色に工夫がみられるか。
11月 ～ 12月	2学期 期末 未実施	≪作品制作≫ デザイン「果物を使った平面構成」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> モチーフを用いて画面を構成し、イラストをレイアウトできたか。 <input type="checkbox"/> ただ描写するだけでなく、どう見せるのか、どう構成するのか、どう組み合わせるのか。主役と脇役の関係やバランスをとることができたか。 <input type="checkbox"/> 着色方法を理解し、美しい彩色ができたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末 未実施	≪作品制作≫ 油絵「静物画」 ≪調べ学習≫ 絵画に関するテーマ		<input type="checkbox"/> 構図の意図を理解し、描写に活かされているか。 <input type="checkbox"/> コピーのレイアウトを理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 1年次に学んだデザインの基礎を生かし、取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。

書道科

1) 書道とは

書道の「道」とは何だろう。

剣を柔をお茶をお花を書をそれぞれを通して道を学ぶものです。「道」とは中国の儒教思想では「人間の生き方」を示します。授業では中国の古典を中心に様々な文字の手本を見て「そっくりを書く」ことを、くりかえし行います。「そっくりを書く」ことは、考えること、想像することです。しっかり考えて手本を見、白い紙にしっかり想像して書きます。書を通して自分自身を見つめてみましょう。

埼玉県は47都道府県の中で最も文字が上手に書ける県民です。小中学校で学んだ硬筆、書初めを全員が学んでいるからです。自信を持ちましょう。

2) 目標

書くこと、文字（漢字・仮名）の歴史を学び、生涯に渡り最も身近な文字の美しさを理解し表現する力を高めます。

3) 評価の観点

- ・書への関心、意欲、態度
- ・見る力と教える力と想像力
- ・表現の技術力
- ・ノートの作成

4) 1年生の学習内容

ア、古文字の発生と漢字の歴史

イ、楷書の学習（唐代の古典中心）

ウ、行書の学習（東晋の王羲之、日本の空海中心）

エ、隸書の学習（B.C. 200～A.D. 200 漢の書）

オ、仮名の発生とひらがな完成までの学習（日本の平安時代の和歌）

5) 授業の仕方

- ・毎時間ごとに提出作品があります。（欠席・公欠の場合、後に必ず提出のこと）
- ・ノート（A4）を用意し授業内容をしっかりとノートに取ります。（定期テスト時に集めてテンサクします）

その他)

授業に必要な用具

（大筆・小筆・墨液・硯・文鎮・半紙・教科書）

下敷きは学校で用意します。

*筆については最初の授業で点検し、使用不可能な筆は購入してもらいます。

平成 31 年度 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
書道 I		2	光村図書 書道 I	なし
【到達目標】		①漢字の発生と発展から楷書完成までの歴史を学び理解する。 ②中国の漢字古典を觀賞し、それを手本として半紙にそっくりに臨書する。 ③仮名の発生を理解し、平安時代の和歌の読み書きを学ぶ。		
【学習上の留意点】		①授業ごとに提出作品があります。（欠席・公欠の時は後日提出のこと） ②ノートを作り、毎授業ごとのノートをきちんと取ります。（チェック有） ③中間・期末テストは実施しません。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	・漢字の発生と発展から楷書完成 ・楷書の基本点画 ・執筆法 ・楷書の学習（九成宮醜泉銘他）		・漢字の歴史を理解できたか ・楷書の基本点画を理解できたか ・手本をしっかり見る觀賞力を身に付けたか
6月 ～ 7月	1学期 期末	・楷書の学習 造像記 鄭義下碑 墓誌銘		・様々な筆使いを理解し表現できたか ・筆の使い方（執筆法）を理解できているか
9月 ～ 10月	2学期 中間	・行書の学習 蘭亭序（王羲之） 風信帖（空海）		・行書の筆使いを理解できたか ・線の流れを理解できたか ・王羲之、空海の2人を理解できたか
11月 ～ 12月	2学期 期末	・隸書の学習 隸書の基本点画 曹全碑 乙瑛碑		・隸書の時代（漢時代）を理解できたか ・隸書の筆使いを理解できたか
1月 ～ 3月	3学期 学年末	・仮名の学習 仮名の発生と発展 ひら仮名と変体仮名 蓬萊切		・日本のひら仮名完成までの歴史を理解したか ・ひら仮名と変体仮名の違いを理解できたか ・平安時代の和歌を読めるか ・小筆で和歌を書く

7 英語科 大宮北高の第1学年の英語授業

現在、英語は国際語としての地位を非常な勢いで確立しつつある。大宮北高等学校の英語の授業では、従来の訳読の「紹介型」から「技能習得型」の英語教育で、「実際に使える英語力」を3年間で鍛えていくことを目指す。そして、生徒一人ひとりの将来の自己実現の力になる「人間力」の育成を目指す。

授業では、生徒の「英語を話せるようになりたい」、教師の「生徒に英語をどんどん話せるようになってもらいたい」、それらの期待に応える授業を行なっています。

レッスンの進み方 知識だけではなく、タスクベース「～ができる」

授業は、英語を使って「～ができる」とタスクベースで進められていきます。「〇〇の単語や文法を理解する」のではなく、「〇〇の文法を使い自分の考えを伝えることができる」というような形です。例えば、体育で保健の学習だけをしていても、サッカーやバスケットボールは、やってみないと上手になりませんよね。英語も同じです。英語を使って何ができるか、何をしたいのか、日々考えながら授業に参加しましょう。

これからは、英語で何ができるか。

これからの大学入試では、英検や GTEC など外部試験を利用するようになります。知識を獲得することも大切ですが、英語で何ができるかが大切になってきます。英語には4つの技能があります。それらの技能をバランスよく伸ばすことを目指していきましょう。

英語の4つのスキルと5つの領域は次のように分けることができます。

	インプット	アウトプット
Oral (口頭の)	Listening (聞くこと)	Speaking (話すこと) (①やり取り・②発表)
Literal (文字の)	Reading (読むこと)	Writing (書くこと)

話す力 (やりとり・発表) の力を重点的に指導

授業で大切にするのは、「スピーキング (話すこと)」です。英語は音声言語です。ABC は英語の音を文字にしたものです。スピーキング能力を伸ばすことは、他の3技能を底上げします。スピーキング能力は、英語コミュニケーション能力において、核となるものです。核となる技能を底上げすることができれば、他の3つの技能が育ちます。

話す力を伸ばすことは、他の3技能を伸ばすことにつながる。

「話す力」が、このように他3つの技能を引っ張り伸ばしていきます。

その結果、4つの技能がバランスよく伸びていきます。



Speaking 「話す力」

即興で、正しい文型・自然な表現を話すことができる。

Reading 「読む力」

スピーキングが鍛えられていくと、語の塊、節や句が目に飛び込んできますので、リーディングが早くなり、文章を理解しやすくなります。

英語を読むときは、自然と頭の中で音として響かせる傾向がある。

語順通り英語を読むことになり、リーディングの力が向上する。

Listening 「聞く力」

自らスピーキングをすることにより、耳でもそのスピーキングをした英語を聴くことができる。

自ら正しく発音できない音は、聞くことが非常に難しい。

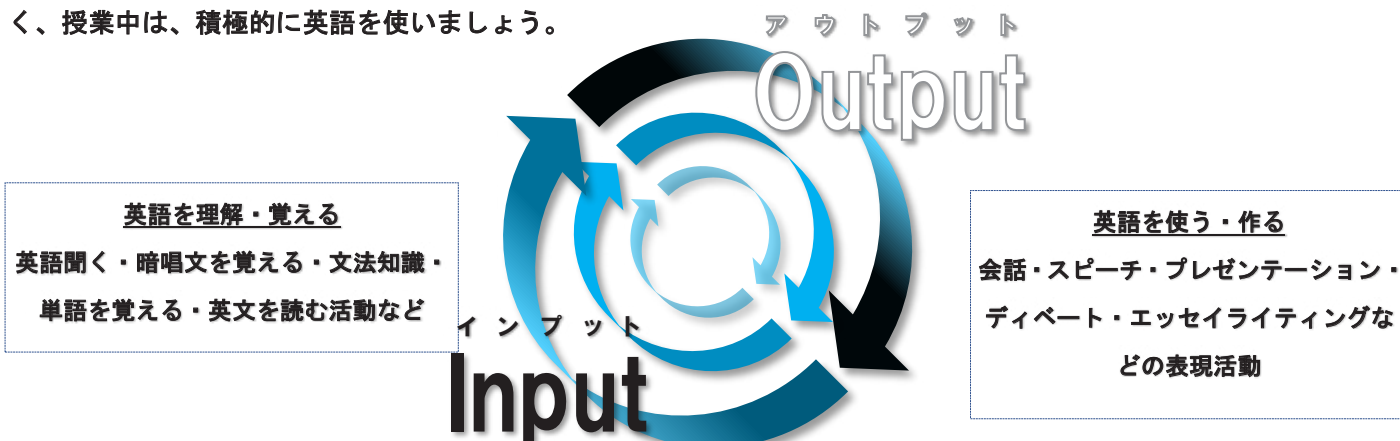
正しく言える単語や文法は、聞くことができ、聞いて理解することができる。

Writing 「書く力」

正しい文型で、自然な英語表現で、英語で瞬時に言えることは、同様に正しい文型で、自然なライティングができるということにつながります。

学習のすすめ方 「英語を使うために覚え、使いながら覚える」を繰り返す

授業は「英語を使う場」＝「話したり・書いたり表現する場所」です。しっかりと単語や暗唱文、文法ルールを覚え、単語・文法のウィークリーテストに備えて、自己学習に取り組みましょう。静かに座って授業を受けるのではなく、授業中は、積極的に英語を使いましょう。



1. 目標

聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなどの総合的な言語活動を通して、5つの領域を総合的に扱い、総合的な英語運用能力を伸ばす。

2. 使用教材と用途

テキスト関連			Weekly Test : 週替わりの小テスト	
Text: Pro-vision	学習ノート	Advanced Exercises	総合英語 be	単語帳: フレ単4500
				
様々なジャンルの興味深い話が入っています。	予習用のノート 授業までに必ず終わらせる。	復習用ワークブック 定期的に提出有り。	文法はこの文法書で学ぶ。文法の Weekly Test は、ここから出題されます。	Weekly Test の単語テストは、これから出題されます。
I pad' s applications		Work Sheet		
	Text 本文や単語を聞いたり、正しい英語の発音を習得するために練習するためのもの。 マイク付きイヤホン推奨。		①教科書の内容理解をさらに深め発展させるため ②学んだ知識を活用し使うための物。単元終了後は必ず提出してもらいます。大事に保管。	

3. 指導計画

	Contents	言語材料	言語活動	Weekly Test
1 学期	1. Lesson 1: The Power of Vision and Hard Work	1. 英語の語順・文の種類 2. 時制 3. 完了形	Essay Writing Speech Conversation Retelling Debate Presentation [SKIT] [Newscaster] [Speech Contest] *スケジュールは別紙	Ost 1 OST 2 assessment 評価 OST 3 assessment 評価
	2. Lesson 2: Oh Bento!	4. 助動詞 5. 疑問詞 to do 6. 受動態 7. 関係詞 what		
2 学期	3. Lesson 3: The Sky's Your Only Limit	8. 不定詞 9. 形式目的語 it 10. 動詞 A+ to do 11. 使役構文 12. 動名詞	OST 4 assessment OST 5 assessment 評価	フレーズで英単語 (浜島書店) *スケジュールは別紙
	4. Lesson 4: Beavers, Engineers of the Forest	13. 分詞 14. 関係詞 15. 比較		
3 学期	5. Lesson 5: Chocolate: A story of Dark and Light	16. 関係詞 17. It is ~ that 構文 18. 仮定法	OST 6 assessment 評価 OST 7 assessment 評価 OST 8 assessment 評価	
	6. Lesson 6: The Power of Music to Change Young- Lives	7. Lesson 7: Talking Plants 8. Lesson 8: One Pen Can Change the World 9. Lesson 9: Snow Crystals - Winter's Miracles of Beauty 10. Lesson 10: The Secret of the Iceman		

* 文法ウィークリーテストの詳細日程は、別紙にて連絡

1. 目標

1. 文法などの言語材料を実際のコミュニケーションにおいて効果的に活用できる技能を身に付ける。
2. スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を通して、話すこと書くことを中心とした発信力を強化する。

2. 使用教材と用途

テキスト関連		Weekly Test : 週替わりの小テスト		
Text: Vision Quest	Vision Quest Workbook	総合英語 be (文法書)	暗唱例文集・確認問題集	Vintage
				
テキストの予習は、授業までに終わらせる。点検あり。	文法事項の復習用のワークブック。提出有り。	文法の Weekly Test は、ここから出題されます。	文法 Weekly Test は、ここから出題されます。	2学期以降の文法 weekly test の範囲になります。後日配布します。
言語活動のためのワークシート		暗唱文などの音声データ		
	学習した文法材料を使うために、エッセイライティングやスピーチ、プレゼンテーションを行うためのものです。提出があります。		文字や意味だけで、英語を覚えず、必ず音声を聞き、ネイティブのように発音することを心がけていきましょう。	

3. 指導計画

		Contents	言語材料	言語活動	Weekly Test (参考書 be・暗唱例文)
1 学 期	中 間	1. Lesson 1 2. Lesson 2 3. Lesson 3 4. Lesson 4 5. Lesson 5	1. 英語の語順・文の種類 2. 時制・完了形 (完了形) 3. 助動詞	Essay Writing: introduction Essay Writing: Practice Speech Conversation Retelling Summarizing Debate Presentation *スケジュールは別紙	1. 英語の語順・文の種類 2. 時制・完了形 (完了形) 3. 助動詞
	期 末	6. Lesson 5 7. Lesson 6	4. 受動態 5. 不定詞		4. 受動態 5. 不定詞
2 学 期	中 間	8. Lesson 6 9. Lesson 7 10. Lesson 8 11. Lesson 9	6. 動名詞 7. 不定詞 8. 分詞		6. 動名詞 7. 不定詞 8. 分詞
	期 末	12. Lesson 10 13. Lesson 11	9. 関係詞 10. 比較		9. 関係詞 10. 比較 11. 文法力認定試験
		3 学 期	14. Lesson 12 15. Follow Up 4 16. Follow Up 5		11. 仮定法 12. 否定表現 13. 接続詞

* 文法ウィークリーテストの詳細日程は、別紙にて連絡

8 家庭科

「家庭基礎」

①家庭基礎学習の意義・目的

大宮北高校の家庭科は皆さんの「生活者としての自立」を目標にしています。

さて、みなさんは「生活者」ということを意識して日々を過ごしていますか？

「はい、家族の一員として頑張っています」という人もいれば「生活に関することはほとんど家族に任せっきりだな…」という人も多いのではないのでしょうか。

極端ですが、「今日数学やらなかったな」という日はあっても、「今日生活しなかったな」という日はないですね。

この教科は『毎日が勉強』です。衣食住、家族、経済…意識して生活し、手伝いなども進んでみましょう。

また家事をする時は、何をするか、どうやるか、自分で考え、自分で決めて実行します。

生活者として自立するという事は「しっかりと自分自身と向き合い本当に大切なものを探せる」ことです。

たくさんの可能性を秘めた北高生の皆さん！

家庭科の知識や技術を習得することは勿論、自分の生き方につながると意識して取り組みましょう。

②授業の受け方

欠席をしないこと。忘れ物をしないこと。私語を控え、課題や製作品等の提出期限を守りましょう。

もし、欠席や公欠等で授業を受けられなかったときは、自ら、その授業のワークシートを提出するなど、その授業の学習を達成するようにしましょう。

③学習方法

授業を大切に受け、その時間に学習したことはその時間内に理解しましょう。

日ごろから家事の手伝いをし、実践力をつけましょう。

特に、調理実習は、授業だけでなく自宅でも実践すると予習・復習になります。

平成31年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
家庭基礎		2	新家庭基礎 主体的に人生をつくる 大修館	最新生活ハンドブック2019資料&成分表
【到達目標】		① 生活者としての高校生になる。 ② 生活者として社会の中で考え行動できる。 ③ 豊かに生きるための基礎力を身に着ける。		
【学習上の留意点】		① 毎時間しっかり取り組み、何を学んだか振り返りをしましょう。 ② 家事を担当し、学んだことを実践しましょう。 ③ 出席を重視し、テストや実習は勿論、提出物もしっかり成し遂げましょう。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1章 人の一生と青年期の課題をみつめよう 第2章 家族・家庭と社会について考えよう 第7章 生涯の健康を見通した食生活をつくろう	<input type="checkbox"/> 人の一生と発達課題 <input type="checkbox"/> 家族・家庭 <input type="checkbox"/> 栄養と食品	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第9章 安全で快適な住生活をつくろう 第8章 健康で快適な衣生活をつくろう	<input type="checkbox"/> 健康につながる食事計画 <input type="checkbox"/> 住生活の成り立ちと住空間の計画 <input type="checkbox"/> 生活小物製作の準備 *調理室や被服室等の整備	
9月 ～ 10月	2学期 中間		<input type="checkbox"/> 生活小物の製作 <input type="checkbox"/> 衣生活、着心地の良い被服	
11月 ～ 12月	2学期 期末		<input type="checkbox"/> 衣生活の計画と管理 *調理室や被服室等の整備	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3章 子どもと子育てについて知ろう	<input type="checkbox"/> 子どもを知る <input type="checkbox"/> 子どもの生活と保育 <input type="checkbox"/> 子育てと子供が育つ環境 *調理室や被服室等の整備	

※ 上の表に単元名は入ってなくても他の章(高齢者、共生社会、経済生活)も関連して勉強します。

※ 定期テスト: 1・2学期は期末テスト、3学期は授業中の小テストを予定しています。

※ **夏休みの宿題として“ホームプロジェクト”**を実施し、そのレポート提出があります。

※ 上記の中に3～4回調理実習が入ります。(エプロン・三角巾・ふきん2枚以上を準備してください)

*担当者によっては順番を変えて実施する場合があります。初めの授業で説明します。

9 数理探究

普通科

(1) 学習について

自ら興味・関心のあるテーマを設定し、課題研究を行います。課題研究とは、自分で設定した課題に対して仮説を立て、仮説で予想したことを検証するために実験・観察などを行ってデータを収集し、得られたデータを整理・分析してそこから結論を導きだします。この過程により、各教科の授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上も目指します。

そのために必要な情報リテラシーや、データの整理・分析の仕方、ICT機器の活用、プレゼンテーションの仕方なども学びます。更に研究を深めたい人は、2年生でSSCクラスを選択してください。

(2) 平成31年度 年間学習計画表 普通

科目名等	単位数	教科書名	副教材等
数理探究	2	各教科の教科書	
【到達目標】	① 情報社会に参加するに当たって身に付けておかなければならない情報リテラシーの習得 ② Word、Excel、PowerPointの操作方法、技術の習得 ③ 各自で設定した研究テーマについて、実験・観察などを通して研究活動を行い、その成果を報告書にまとめる。 ④ 各自の研究成果の発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。		
【学習上の留意点】	① 各自の興味関心に応じて研究テーマを設定する。 ② 主体的な態度で研究活動に臨む。 ③ 情報モラルや著作権について確認する。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期	情報化社会について 情報セキュリティについて	<input type="checkbox"/> 情報や情報社会についての意味、情報の特徴を理解したか <input type="checkbox"/> 個人情報とその保護、個人情報の漏洩の実態、防止対策について理解したか。 <input type="checkbox"/> 有害サイト、チェーンメール等、特に携帯電話利用の注意点を理解したか。 <input type="checkbox"/> メディアの特徴と、メディアリテラシーについて理解したか。
6月 ～ 7月	1学期	「大宮北高校紹介プログラム」の実施 課題研究のテーマ設定・研究計画の策定	<input type="checkbox"/> データを収集し、客観的にデータを分析し、目標に沿ったデータを取捨選択できたか。 <input type="checkbox"/> 必要なデータをまとめ、プレゼンテーション資料を作成できたか <input type="checkbox"/> プレゼンテーション資料を用いて、母校の先生に大宮北高校を紹介することができたか。 <input type="checkbox"/> 主体的に課題研究のテーマ、仮説を設定することができたか。 <input type="checkbox"/> 課題を立証する為の具体的な計画を立てることができたか。
9月 ～ 10月	2学期	研究活動	<input type="checkbox"/> 研究活動を計画的に進めることができたか。 <input type="checkbox"/> 実験の過程を実験ノートに記録することができたか。 <input type="checkbox"/> 得られた研究結果を客観的に分析、考察することができたか。
11月 ～ 12月	2学期	研究活動 研究中間発表 (ポスター発表)	<input type="checkbox"/> 主体的に研究活動を行うことができたか。 <input type="checkbox"/> 仮説と検証の内容に整合性があるか。 <input type="checkbox"/> 研究目的・方法・結果など分かりやすくまとめたポスターを作成することができたか。 <input type="checkbox"/> ポスター発表では他者に分かりやすく発表することができたか。
1月 ～ 3月	3学期	研究発表 (口頭発表) 最終資料の作成	<input type="checkbox"/> 発表スライドを作成し、他者に分かりやすく発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 指摘された事項を踏まえ、最終資料を作成することができたか。

理数科

(1) 学習について

自ら興味・関心のあるテーマを設定し、課題研究を行います。課題研究とは、自分で設定した課題に対して仮説を立て、仮説で予想したことを検証するために実験・観察などを行ってデータを収集し、得られたデータを整理・分析してそこから結論を導きだします。この過程により、各教科の授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上も目指します。

そのために必要な情報リテラシーや、データの整理・分析の仕方、ICT機器の活用、プレゼンテーションの仕方なども学びます。更に2, 3年生で1年生で学習した成果を活用していきます。

(2) 平成31年度 年間学習計画表 理数

科目名等	単位数	教科書名	副教材等
数理探究	2	各教科の教科書	
【到達目標】	① 情報社会に参加するに当たって身に付けておかなければならない情報リテラシーの習得 ② Word、Excel、PowerPointの操作方法、技術の習得 ③ 各自で設定した研究テーマについて、実験・観察などを通して研究活動を行い、その成果を報告書にまとめる。 ④ 各自の研究成果の発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。		
【学習上の留意点】	① 各自の興味関心に応じて研究テーマを設定する。 ② 主体的な態度で研究活動に臨む。 ③ 情報モラルや著作権について確認する。		
月	テスト	進捗(単元)	自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期	情報化社会について 情報セキュリティについて 「大宮北高校紹介プログラム」の実施	<input type="checkbox"/> 情報や情報社会についての意味、情報の特徴を理解したか <input type="checkbox"/> 個人情報とその保護、個人情報の漏洩の実態、防止対策について理解したか。 <input type="checkbox"/> 有害サイト、チェーンメール等、特に携帯電話利用の注意点を理解したか。 <input type="checkbox"/> データを収集、分析し、必要なデータをまとめ、プレゼンテーション資料を作成できたか
6月 ～ 7月	1学期	自由研究サポートプログラム準備 「大宮北高校紹介プログラム」の実施 課題研究のテーマ設定・研究計画の策定	<input type="checkbox"/> 小学生が主体的に自由研究を行えるテーマを設定できたか。 <input type="checkbox"/> 安全に配慮しながら予備実験をおこない、準備を進めることができたか。 <input type="checkbox"/> 小学生の前で実験を行い、その内容を分かりやすく説明することができたか。 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション資料を用いて、母校の先生に大宮北高校を紹介することができたか。 <input type="checkbox"/> 主体的に課題研究のテーマ、仮説を設定することができたか。 <input type="checkbox"/> 課題を立証する為の具体的な計画を立てることができたか。
9月 ～ 10月	2学期	研究活動	<input type="checkbox"/> 研究活動を計画的に進めることができたか。 <input type="checkbox"/> 実験の過程を実験ノートに記録することができたか。 <input type="checkbox"/> 得られた研究結果を客観的に分析、考察することができたか。
11月 ～ 12月	2学期	研究活動 研究中間発表(ポスター発表)	<input type="checkbox"/> 主体的に研究活動を行うことができたか。 <input type="checkbox"/> 仮説と検証の内容に整合性があるか。 <input type="checkbox"/> 研究目的・方法・結果など分かりやすくまとめたポスターを作成することができたか。 <input type="checkbox"/> ポスター発表では他者に分かりやすく発表することができたか。
1月 ～ 3月	3学期	研究発表(口頭発表) 最終資料の作成	<input type="checkbox"/> 発表スライドを作成し、他者に分かりやすく発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 指摘された事項を踏まえ、最終資料を作成することができたか。